續孫桑毛二編
八下
宮崎文庫
本草明道 二下 三上下
へ13
3759
2

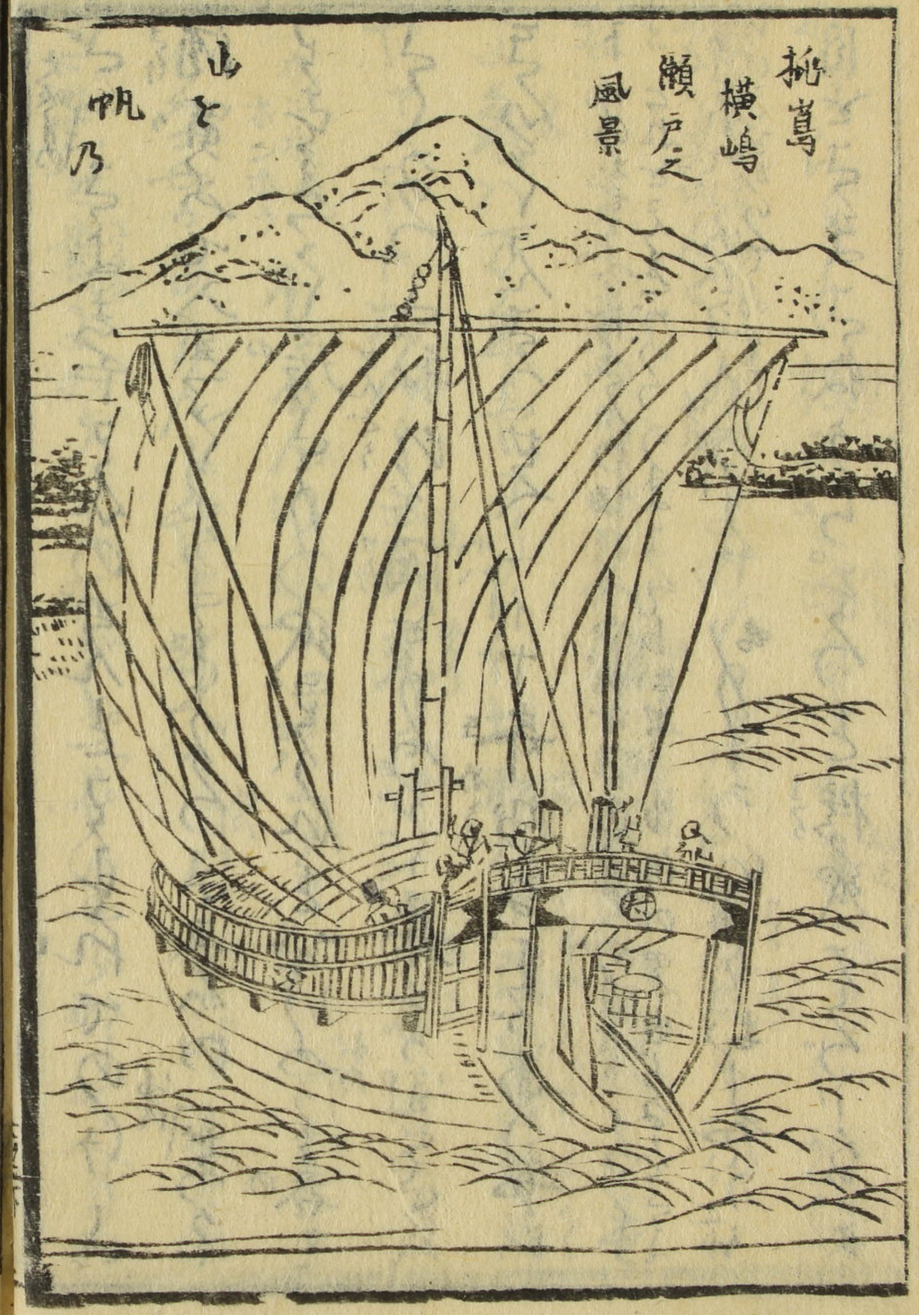
門へ13
號3759
巻 2

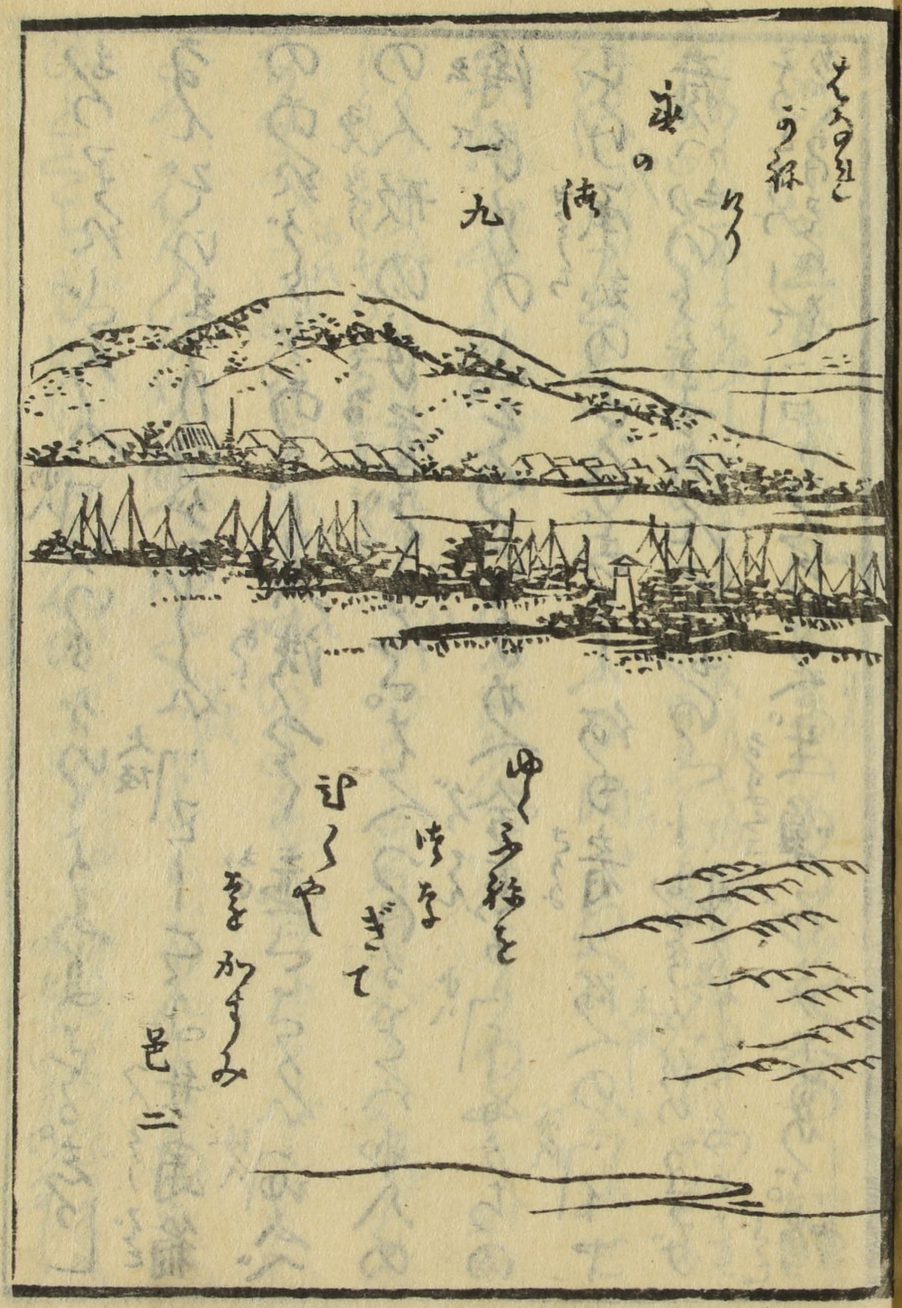
宮嶋糸詣　續膝栗毛二編　下巻

かくて阿伏兎を発船し、撫島の漆戸をとろう。
絵の島沖の海乃あるようにいくつも見え、西国方の
船大名の船私船などいくつも。紫の幕打まわし。名
色の陰馬乗などあるよりてくるぶ。紅白
の吹流し風よ来るぶひ。京よりのがくりて長く愛
いさましげよ見えるぱ。ぱちん私を小私あまさ
二ぱくよのふび。藤掛子をそろくてひきとろう船。

めづらしく。板子を踏みゝを音「グワタン」ゝのやうに
きいたのうちふり。「めでたのく」エイソリヤ。若枝も
ふるうるのさんど。エイエイ
枝由さうく。繁もさうく。納る代のナ。繁八ちとも
よ。亀ハ万年ヤ。エイソリヤお私ハ秋渭水長流殖
ヤ。ヤヨエイヤたんく玉の光ノ三きヨウユン唐木ばくり
ノホンホ ホンホウ 石ゐんいよく「エイコノ「グワッタく」「ナニト
さるおかるゆんどヤァ新くう「そふさぴ」えりの
ぶ。芝を着よかういの。ホゞく。「ぴいやゝかくりの

大阪ぶり
「さよおやうんのぞえんとこそれてのけさ。
酒買ふて入まつく。まつうさうんの「せうく
つうまつく。居さりの沢ぴうんとぜいつう呑み
さくるつさ。私ぴが酒とりつく居るうぞさハ
さうみくえんさうせく「ポイヤ弄おなとぶあり
トかめおをうぶぢさイの酒格くあびをさとも人のり合ゝゝ
とれをえんまべいつのまゝからおせうも他の男もぶみたさ
のうれてぞうひうく「後「コリヤ もりうい。アノ もうぐ
いびきをかいてゝうひうく
目をさまさねうちぞうと格沢くぶーんのどえ


摂嶌
横嶋
瀬戸之
風景
山を
帆乃


一九
ゆく手紙を
ぢきて
見くやし
をかすみ
邑二

おろすぢろめ「小八」いっぷがいっちゃくるぞ。おろ
るんぞいまりのがそ「大坂」ーこーこの無箱
のの紙ぐらぶあるぞよめ洗ぐ盃さざらん「江戸」ゆべ
の人形のぼ並ぐ「江戸」ーるんぞ。ちんつけるとん少八の
降ぼりのぞ。そうとくめん合点ろ「小八」ーゆうちの
ちけ風気のちけ。おろ「江戸」何も着が強人の「江戸」イヤ
着ハおいらぶおらんでもいっ「江戸」ト「もうが付のうっぷ
そうとぐーて「江戸」ーこーるる世。生嗅ぐうぐあぐ。酒

のあ「江戸」ーと三本まぐ「江戸」持参ありがてんの「中村大きく」ト
ろるあーと一本ちぐーて。ちぐ。ちぐえりものぐーよすおくと。
ぞちぬ山小八さろ指をひつけーるるるをとちく。べんとちたとの
ろるん「江戸」ヤア三盃。ろのーふみ酒ぐろく「大坂」ぞのせ
並酒ぐやおろ。おちよとぐろのん。「モウ」ちろろく「ト五合」
ぬろもつぐとうてぞれも「小八」「サアノ」ぐるぞぞんぐ。え
おとのぐぞそとるをーおき
るのせん「江戸」おいらぶ毒味いちそふ。ヨトちく。アコリヤ
さろ。ぬろいけ強人酒ぐ「大坂」ドンく。ろんよもるん。
ひとちもいけんろんのぺっく。トいろもひぐろ時
のまぐいりのる

あてでとをいひるぐちさんつあさんつちやこん酒のどりーの武
うちふのへ吉井百姓のあうをうちふとぎ尾のきあぞうきさうりん。
鞆より此西五里余 此西北東へ山ふとく。ぞうのこへ入海乃
深ふのう。鞆よりへ移まこうて繁昌の地ふれ
べようづの商家残るかさるく。殊ふ築地の
形地ふへ。接女町ふどありて中出市一の流
ふりとぞ。

日の新へ青海原をてらしつ
光る孔雀の尾の道の沖

これより鞆浦をうちふるぞ。南の方山伏の瀬戸
えうりの瀬戸。鼻ぐる瀬戸ふんどりふとんつく。
此見浦紙地浦をとぞ。瀬戸四とりふあうう
ふいうりしに 「コリヤ久三子ヤ。目をさまし」
ういふりふどきりとへづりもうさぞやあう 「エイ」
ゆちふどもりふとこふ。だぐりてよりふへんやを
「コレ盛やろうい。こりやそのさをぐどもこへはう
せうい 「エイ」これう子ヤトかのこふとをうりぐせば。 「コレ久三子ヤ。
おせう中をひくきんき

ヨどっちよハぴぞうひんども喰やせんうん（エイ。うら
いろふてもんませねとん（あぢそう）おどん腹かすいあるこや。
三年の男ども二年あるこんぴ。ちっもノヨ（大）ふといあぐ
うのんとい。ぢどれこっちひあくさだやあろト（彼の男と大きさ
こっちのこんぴのうちふあるしく今よりさ酒樽をえく（コリヤその酒
ものるでのうふと月ひきさ袖ひきーてんそのるとおせう
どもこくだよせ。ぬよ茶合のおれ酒ひとつどまい。
ゐトいっくどっちすくせんこくの（ハイ）有ぐこよどぐりやこそぶ。
夢酒よこうこそーこそれば
ぶらこうこう
一向茶酒法でどぐりやそこ（そう）ちやの移さのお。

かるへ（小）イヤヨろうちも下（げと）戸で一（ひとつづく）ちやもやさうやもやね
（大段）いひあへせさよふよこゐ不（ふえて）滑めでどぐりや浴ふ
ゐ（あぎ）ツリヤいるるるぞけとのいのりのへ（あて）おもぐるのて
いいんのものどやぞうきれかうまんきよとぐるん。
コリヤ久三（久三）法いどぐこうれ（エイ）コレ（おぢ）その指ぐや
ゐんぴツリヤ長千が折（ちく）角こうつしぶ。あとのもの造（つくり）で。
ゐこうのんぴぐんな私（わな）どもで。その酒（さけのこ）呑ゐうこと。改（づつ）漏
ぐーてこまるものどやゐんゐん。包（へこ）の中の件（さた）

ごもばっせぬト さっぱりそうしきづくをと あけさせぬべくとどくべく
「ア」呉へ
格別 ふるい酒じゃ。うまいく。ア、おあらっぽくて
下戸で残念ト もきじゃもいられぜんぜん
るをこのく。ほひらく少しのどをぬらすのむをんでぶつり
かのもつつの酒のふるひあるまよのがっぱうをとてとられを
「イヤ」
下戸の広徳。酒をこんとくさん沢痛がってあっぷト
えちまきをまれだ
「ア」
うつらもうのぜろあとまつぶ破まるようふ
うつて来るト おるのじゃくたちまきをとる。「ハア」
大坂のものいろれをとあたくとかく
うのんとってやら。後がごろくとうてむくく
かぶるまふじゃやらんのア、おあつるいく
「ア」
おまいのぶっぷりくのさっぱいぶやなそくうら
変ものとよるいものがあるちる。ぷん鮒やぷん
ボタモチ
ぜ子や。ト 小さ糸ひとを入れべがりちるっぷ
ちっちいぶさるっぷるんぶもぶぶれとのふぶるら
上戸まれば「コリヤ」うまいく。ぷんぷ
ひっくりて
「それ」
ゆ子や ものがとぶく美くて来ぶっくっぷーきっくひ
ぶや。美るくぶうだっとぶるっくっく主ま
ぷんぜ下なるっとほひっぷん。ちあ人が盗人下戸

ざざぴかのんでもよのくそうこそ出へぱまくーまいらも
ひーとういてざれやせうゴリヤうまんへ　彼の
元の　ぐんのの元のそておきそや　久ニヤイニヤうらそのうん
めちむさんけよぴまへひまうせぬ　ナニこれが
むさんこざあるものざ　むさんしもくぴさん
せうーしやうん阿伏　鬼の口ーぐ　会ぐよるる
平へいさらぴんめちそーろのくーぐやあつさぐ。
ここのうちのおどまんしまのが。桑釜の中ろ

うんめちをまつ木　ストリュ木　はいてーぐや
初さよぴちつさあぐ　遠　おろくあそびおろさぐ
子ヤ。てうどぐさんこざぐちのあまどろだけこうの各
層ぐもあさろうこれおろさを。少　幸　ぐんく。
コリヤむさんとまおろくとそのぐ層ぐも。ぜんぐ
りてひろさくて。ぐーおろさをのぐぎぐ
そこよ。たぐーつのくおる上へぱどまんのついて
おるうんりちがぴよんとをぐづ出おろさを。

備後國尾之道

ゆゆし船も
さしつらて
入るる
長崎
さハ

備後
おりての
来の
海うら

十返舎一九

めでたくて紫釜の中へ入まおつぶその
ちくあの餅へ唐ぢうこうんとおつぶやあるよ。
そまもりの赤よよはきさまぜおんとうちつる
うんめちぢやぷこくよさえてくさりつぶこし
そまこ紙又おんとケニぷむくんぢうだうとあよ
こうぶうのんぷ黄のくいのんてかけて寿このぢや
うんめの「陽」ナニよぢうちの中へ子供の熏が交て
居ア　こうぶうおめくうんぢうの紙ちうせ「ポ」イトこの

おせうどのいぷこうく強くとうこぷうねぢこうねく
りの紙ぷのぜおいぢよこうのせこのぢぷこううも強く
ぢくおうぢうく「陽」おまいぢこそれおこうん
ケニぷこいぢやるいうん「小」ナニこうんぢこーやア強く。
酒といやアろくでも強くさけをイヤろくでもれく
「ち」解ぜ人よのまぜやアぢつそぷあくまうんぷ酒が
こうくうのつぷゲエリ（ケロ）くト表面のうえぢこうちのゆうふを
いぢこうこぷのゆくたこの「お」「ユ」り下何ちぢさんくぷきひさん

ことてやコレちまん下戸じゃやといふこざひどう酒
さいとどじゃそーてこがひよどうびんのあ
どもさえぐらんーこパパアきこくおつごらーが
ひとどもどうびんとてこらんーこるイヤ
ひとろこ本めナニこるのさの塩をとうてこかりの久
イヤくこかこちこんいかないだるをいかるゴリヤ
あのべ新のまんだうやでこうさのごこ
喰くこりあるどうだりうーこころひーかる鞠でこ。

昭和　さまのさこんちあるてどうびんこうんケこ。
うもせんこんナニノまんだうやでこうてこまる
りのこんその酒こいとどもそれでまれこくこ
揚こくびまこんエイコレこんこん。揚のひどう粧のつこ
酒もどうびんもこどこよかねこおつこ行こうこ
このじゃ天秤棒こてこくせうちーこあのてこれこト
きげんこくどんここのつこひどうこるこうどすればこうここ
こちかくここのあとこんこれこれこうこうこ
けづうまこうめこくこがつまこの男こどこまここと

ちりやアぐるゝ。そこへ。あぐ
ぢぞ。とろ法よアぞんろう。のこべ
ぞ。ト　あるのぶ〜ゝろそつをかゝらんとして。ぞゝさハが乃どゝ
ぞ。ぞろさうちりらをつゝひをうゝよ法ゝらも
あるぐ〜ゲロ〜〜〜　大阪　コリヤやゝ。ものゞや　ッンゝくアどアよ
も。そゞいよゞうびんの乃ゞどゞんゝさゝうんゝ。
コリヤゝとゝまんゝんゝトいひゝうゝ。このおゝさまよ。おもゝもへゞどよゝをゞぐり
へとゞゝけよゝのゝてゝさゝゞをゞのゝ。合の人ゞぐあつゝちゝろゝちゝをゝゞのゝあ
てゞゆゝ〜〜よゝまゞゞゆゝゞゞゝちゝあゝへハ忠のゝゝをゝをゝゞゞ。二腹とゝふ小俳ゝ
つ屋の乃ゝゝゝ　七里余

鯖のあゝゝひゝ〜喧嘩の根もゝゝて

いゞあひゝちの私の業合
それゝゝ坤の風もとゝ。汝もゝゝゝかゝゝ行べ。
紫浦ゝとゝよ舩をゝけて。その夜ハゝよゝこゝまゝる。
翌日北嵩のゝくゝを追風ゝゝとて。ゝゝ出ゝ。ゝまゝゝのゝ
陸戸を打ゝ。平相國清盛のゝゝ。ゝゝ神を
ゝゞまんゝと祈誓ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ神大蛇のゝゝゝを潜ゞ
あゝひけゝ。ゝ。ゝ國ゝそれゝのゝひて。東の方へ漕ゝゝ
ゝゝよゝ行ゝ向ひ沒ゝて。私の乃ゝゝゞゝゝゝゞ

相模いくりの浦にて。海上をあなたこなたせのひしくべ。汐
逆さまよ上のうえひきくとうのうぜさるふうて一石を。
清盛のあくまの弾戸とのふ有りとぞ。
清盛のあくまの弾戸、白ふ八又
あき出し笑ふ山の追風
是より鈴岩市白市沢とぞ。石どるく越州
宮浦あぜ長くうり。惡の海より二十里余七里
女神あてとてせのよ宮浦の

仲へとさら祭ふどえ一ふ
此所ようこそ陸よのぼりそれよ接拔
して。おりひくよつられ白くぞ。浦ふ小八へ
そこらうろくとえんあるえ。やがてある
藤鼠色よりて「モミ」あんるの世へどよぞ
今ノ夜。どうらとおくこのこやを「エイ」男
おとまりでぐんもろ。ふうりじやる。おまあとへ
どうらやでおんも「ふ」少八「ろ」ちうぞ。武州ぶ名で

ござり升て　男「サアおいらがあがりやせうぞコレおちやん
どふぞ二階(にかい)どものふさ間(よ)めへおとまりやして
りんせ　女「よふお出なさりましたどうぞこちらへ
お来(き)なさりませト　めへるいして二人づれ　小八「ある所の宮様(みやさま)ハ
女のいひ所ござりませうがみんなこくで様へまゐ
りの　清次「そりやさうでござりやす様へうらの
女のをとりやうる上ハ男(おとこ)ど　小八「さりながらあなたのま
せておいてどう気がけと申ふでふぞふうまくへ

させ様へでなく　清次「コレハよふお酒(さけ)でござりませぬ
お宮(みや)へハ御参詣(さんけい)でおせんせんかな　小八「イヤさよふ
でめへりやせん　清「さあはやく行けば今夜(こんや)うら
どもかくのお客(きやく)さまかたお娘衆を差上(さしあげ)まする
まへケニまあ御膳(ぜん)もつけさしましてくださり
ありとは参詣(さんけい)なされませト　いひさそかうちから
おまちとうやひ日申「うらおとづりやませんケにお宿(やど)
へおまちつりなのもとやませ　清次「アイりさうやせうぞへ

後と卸朱が買てうるの女くそして茶屋履をと
一ッそくしうのをもて「女」エイ〳〵ちるみてしうう
ごんとそうく、ト（ヒトヘヅウリ）（両掌一斤うけとり手をとどろくまくく。
をりて「後」コリヤ後ハ是ぢうりさあはくぐく
おうんと「後」うんのこうさぴらら稲く叫紙れハ
「女」きゝ女と三女のれぢヤ（ヤケニ）それで卸朱分て
ごんと「後」ハアア銀れ（とんさん）ちうめさく（ザア）小人歩けう
ようろ「口」コリヤ女中おあくつまをらうとこまる。

女「のう、いつきよおきなのあるじ、すませ」ト女のあんないにうちつれて。ともにそこをたちいづれの松かさをすぎて此境内にいりきたるは、社辺の花籠の人ならずなく、此本社の内陣廻廊に百八燈づるみあり。さりげ東西の松の木の君をたて、石燈籠あり、さき引くとりつけられけしきすぐれ、弁財天とみへ、此燈の辨でで限六十余あり。これは今宵献燈の施主ありてとりそろへしるあり。先ひろまくよまありて。

琵琶(びわ)ありさせぬのよ、由縁ありや、諸人(もろびと)にかぐら利生(りせう)ある神ぞなるさ。これ弥山(みさん)の宮巡(みやめぐ)りといふるのあるじども。夜中(やちう)のことなれば、先此境内(けいだい)の末社のみおがみするに巡拝(じゆんぱい)して、かくるところなら、松たいまさしかかり

娘「あの、ひとりどんなみしまきんさいまりかね。お定ぢ納采どうが、又此婦(あね)さまも統領どこもおかへを此男(おとこ)が念(ねん)がけぬるから、油断(ゆだん)あるなさくのこく」

腰「ハアニそれはさうくよ、承知(せうち)して居(ゐ)るのへ。サアあそびみにいらちへまんなせへ」ト かの女のむねとらへてぱいせんとをれば

女「ヲホヽヽ。おうちよんとしてや、どうぞ、これつけかホヽ」ト 此時きやうつきにとがようしののを称そめなから森のあるじにつまづけば、森おどろきてとりつてとりちのがるよ

ゑとびろうして　「ヤアくゑんざくゝ」ト　さうは　つぶせば　麻い　よく
もうろうして　うさんくさいのぶん　「女」「フホうゝゝ」ひどうしてゑとびいざとゝゝこゝハ
爰の麻でおんと　「侍」ナニ　麻がこゝらよりやとも
「女」「明神さまのこうろうしめじやケニ　ゑのんぶのあん
ゑのげよ　居ちりまし　「侍」「ハア　それで　高つひよ。
そんとこへまゝ　ぶてよ　ぱそまの男が　むせうよ　先へ
逐出しこうさいこうわすナニトあめく　今　有ものゝ
ぶがあるぶきいてそまを　神へ　「女」「ゑんじやへ

「侍」ゑんざとかまれさこうこ　音へいそぶ　おうよ
人のゑーぢこうとゑ　消　ゑ　ゑ。そのこうり
右こら　左　撞ぶ　解ぶ　ゑ　紙　ゑ　あくよ　ゑ　ろ
ゑーぶ　ト　せんこくの　限れを　紙　ゑ　女　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑんゑのげゑくゑゑとぱ　「女」「房」ちぶれんさゑぶぶこうよいこ
ケニ。ぱゑゑーゑのあれト　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
四五間だこうゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑとこーゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

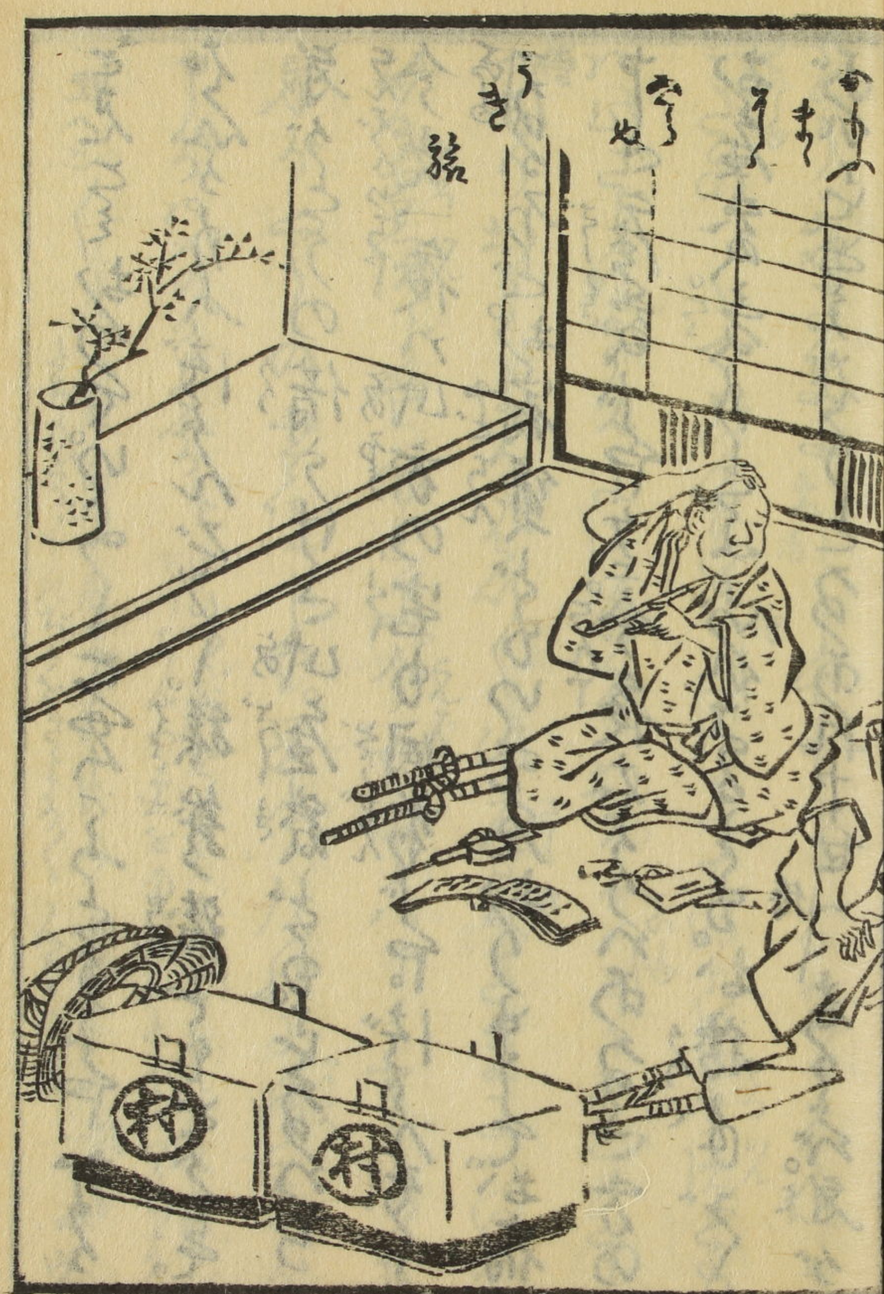
弥次さんあの手紙よんで弥「さうさその願文を
おしへさ女「アレくあまりやかましいせんか喜多「ドレくどうだ
ト かうくれば又鹿があつて弥「ヤアノくばちくせうめ
願文とむしりくらふぞある
三人を横よふせやアがつてさつぱりあへまいやつだ
ト 石をひろいて弥次もくそ鹿よぶちつけると「アイ鹿よ傷づくしも
かのもののどうか四五人ともおかせ
うちものへぞかんどやぞさまよまつけるぞ
主この弥次とくらへる弥「コリヤぞうしへおまへがそつ紙かつさがぜば
それも鹿へかのものこ「御神さまのお鹿がぞ
さんざんの会所へもどどろいて所の頓観
どうぞよそへやらせげつ」ト 弥次とまどひをぞる
喜多八もこらくどくれ
それとおもへども多せいよふせがれるのかどつらおふと女子もくと
かのもののどもよあいさつしておくとくさせげる詫れはしところの
おきてみて鹿へ弥次のつみあらはとて人これよるまつさかり
鹿をおやかしりの指目より そやしの五魚とりひつてる子にはめの
どもかくへのこり
のひろるとう笑ふ
遠くとも鹿にかまれて
痛へしる之 数 みづ
かしてその手つ禄箋に悩ししるよ亭々

出ばりひて「是ハ大そんもの」もりくりあるのれと。サア
お湯ぶ浦やまりとケニ。お入るあれ「陳ア」とんど
英雄よあるて。ゆ中ゆ目ようるうと。もつらさ英へ
ようるべんう「トもぐよのどのくごうる。さとハ入りとめ二ふの
ごーとうるとぶるる「ア」イ「これハ伊てい祝くみ「トいひつ二つ三つ
そんくりうてくる
ふひておちいるる紙よつるがくしてまりかと。ずてはたと陽ようあぐう
ようり。小へうりて入るおくくふるうりざーとうる西出ぐうの侍名こ三ん
ぶ。いまれせーるが。ふくくくしハ定宿ふてはたら。ゆハりりハもそ
ぶ。うーとれどもふるうのうぶ人さるよ陽へ入るとりきどうぶうく
ふくいひーるぶおげて「ニリヤく
ふるものとうびうんぜ

デヤ。ヲども間面爰どものお入でハうりうぶの
う。旅人ども相宿をせるとも。此方家風ぶく
うるうるひとどやが。我ハ業白家業のうるぶ。
そんぐんぶけハ中ハ外の旅人ども。
ヲ方等ようさ人風呂さるく入まもつて。
りうぶ正生うひぶく「エイ是いうら空間法で付
ぶんぶ正けめんるのあれ法うんさあ生すぜ「イ三十
まうりうるうるんヲぶと今日ハうんあうう

さるきぶんさわがる湯どもちやくみやせとア
つけさぞそれよろづりんこんぐりよせるのいしや。以来
此方出入どもぶちあけるぞ「エイノくさあつく
どれ係らましやしてへぶらら遠慮しておいらし
ありまんおつちやのおくおとどもざさらく入ましほ
よき人柴胴どやうにいつきますその湯どもあつし
ばうて泥踏あくるしうたるやまたちとおゆをお
されてはつるさアれますせ侍「イニヤ身が上より只今

より外宿くまろりづらんだらいぷらんびんかる宿
意まいつらかれぞ「さんあげよさあはやくまい
つくとびろくおちらびとヤても。此湯殿がかいけに。
ちよエるがおかんでん。此踏は汲手どをりとなす、
おざあまりますセト侍「よりたんく。至つけ年来此
どうなさるおぎれよかろてのけられいば
さう今宵もかうしぎ亥を出てかり
もしとおきのそれどぞおとあいのれざ
方の定宿いたしありあぶら。身不案内をおうけ
ばよまする。今日遠足どもいたして。たりげそい不


弱
村
村

三度
糸

をんこゝおつてゆよくこゝふとうどやなり
たんぷりんぼんぐんぞく。旅籠屋どもとゝ
ゞ。外ごとうの借うけさん屋敷ども。とうのうち
今晩一夜八ぢ方の宅も同前ぢや。ぼんぐく
「ゆるりどゝ。宿賃どもいつぱいもらつて。宿
やさ屋敷どやケニ。今夜だうへあるゝ方の
お屋敷。爰りとよぶんさるも。お勤めぐく
ぶんとゝぢうだりとあれお世「侍」ゝ。身が
とう爰さまよ。お居「侍」ゝ。ゆるしても。やかあるうだんぶう
「侍」ゝおつくでぶんとて。雪屋ども
べぶざーれさまよ。けんぶくおるゝ「エイ」ゝこゝ
「侍」ゝおるゝ。ぶうだんぶく。け屋敷さまよつて
おる雪屋どやゆどよ。今晩中ハアノ雪屋も。
身がとうの雪屋どや。呉今たれよ来ゝとゝが
やかハあるゝぶんトゆゝ。紙をりこゝるぐらゝんさ来ゝ
「ゝ」ヘンくト人のゝとつて居るやうゝ
ちりぐうぐーれぢゝをゝゝろく。ゝんまゝ。「侍」ムウ

はなのかのでいるのうだん。コリヤ〳〵てのさこそうん
いよく〳〵ゑ雪をあつかるひるる。風呂さまへ
外の旅人どもをさそく入きる。きこ雪屋どり
るのでうん。ゑきこう余人へをさそくへりまうこテヤ
エイそれいやらそんでおりませぬ（侍）ちとんぐん
とそまるんぞ。アノ雪屋どもも。呂今くこぶんで。爰
るをとせ（エイ）〳〵こばふとこてこんぞうだうと爰さ
ケニそるをとをへ今いうきまんでけぬらへ

ばんを（侍）いうさまよ建車とかうよ。ゑきこ
るの紙〳〵でやこんだん。ト（侍）はちちせちちんよう出てくる
りのふきこハるうぢちどとんて
（侍）あるうのりのじヤテヤ。ゑが出うの雪屋どもへ
挨拶もせるんで。呂他法千万。没屋どもとも
るのうだんう。ゑども不等ども。あるうちるが呂今
こるるまるるつて来るうさト（侍）そのちせちちんへけば
りちるうさくるとここーんきばげんるわりきうーどとあのこる
もばるるどいひてこらんこるこるるよ法ふ〳〵ハハのこるまひとへばこる
はいさきをあ〳〵笑ぬるうち。（侍）
ちんるあこんをりちきこうり
よおこうるあれやせ

ヲイ〳〵あのさんざろきろちがいろさこと。
あ〳〵ぞろうの ヲホ〳〵。どうだろうもせう ケニ。まあ
おろうのあき ト ときとうあてがひ。おさへ。だれさせてあん
どうへろうとくりちゐ〳〵とおとしてどうう
おそぎさこハハせんこくかゝてあきてろひちろわ〳〵を コリヤ ほめく
出 ぶとんのうちふそむきりう〳〵ところふ
何をとろく ろんでも 祝 むこやく おしぐ
まるハ。おれふもちうとくれろく 下 おりがぶ。
ひとろやろふ。ソレ なげるぞト まんだうひとろ
ろぐてひとろ。猿と 乗 おびとしく。乗い犬のごく町中よ
ろひのくあるとめんぐうぐひろうそひとれをろうくども。乗猿
ろもよ神使ろうとそぶのりのこれよろまハざんばろうよ人せ
おそんぐそろひもはやどの窓ろう 猿 とびとそぶざ〳〵のくふぐう
まぐれちろ〳〵りろをろぐはさろろりてゆろうちぎ〳〵ろちぐ
ろげ〳〵ろまんだうをはだやくろうそろふいろよの猿 初 にあてはの
ろまあきりのろれべそのろげ出 ろはとはんぐどちちちろそ
くらふをぶろいろそまろぶ。祝 コリヤ〳〵どとくろなげ〳〵ろ。
そろろあろとさぐりまろ〳〵て
さろぐろまれ祝 ろそ ひとろくばまで
いよしる 祝 イヤまぐ。ろんさろろねくりの一ッ
くれろく 下 そんろまろさろなげるぞト 又ひとろなげて ゆると猿おきろよ
ひろひて くらく 祝 ぐろまれ祝 いぐめく ぐどくらく

なげしこそ　次「イヤ〳〵そのまハなか〳〵ぺりがお傍(そば)に
ふたりへ　伝八「エヽだんなあへせなどこし〳〵かげまつて
ゆうトおうさるのきり。そこをさくりすみさと、手さきさきがかの猿の毛(け)を
さわりぐわら〳〵しく手をひつこませバ。猿もこそ〳〵むげて
ゆし「伝「なんぞ猫(ねこ)ごそふみな。ジッシ〳〵ト此うちなや小八さ　猿のくろうちうさまし
伝八も小さん引かぶりさやく〳〵と扨〳〵むかうち。いはねふ人のまる
あしおとのよふやみしかく〳〵とたるのなるおとを小八きて耳ませまして
さてこそやく〳〵せし。かの下女のあのびまるあかぶんとおちぬすりまよ
女ふいあふでせんこの猿。小八のふところよりちぢらしのあるてぜちう
ぜしみや。ぞうりくとえひよう。小八の吾りめしなかふとんの中へ
手をさしこむと小八ころえ引こみんとその手をとつてぎう〳〵てんし
こうとりふてちかへせバ。猿もきゆつとさけびてばつぱくのうへまよ
かわりつ。ばつぱとおどろきこれもかうつとりふてちあもおきるひまに

よ猿(さる)をとつてかさり出させし。猿もうろ〳〵かさ〳〵みなさまさつてにひ
かものの上へつけあがり。らんまわり岩のぎうしきりえんどうりし々。
そこよりのかうし。お侍の小びんさきへとびつけバ。これもきつとかり
おどろきておきあがると。ごろ〳〵社みよおどろうき。何でもふんとおきぎろ。
このさわぎよ猿もうろ〳〵出たをうしろのひおうちこそへとびあるく。
こふがりやうぎつれ引かされてこけるまゝ。おきさるまゝ。座ぶとんのかぶりくもちぶれで
よこみしまひれ。ざうどうよそるうち壱人のお侍。まくり火打うちつけ。くらの
ちうつけあまよ火をとりみれバ犬のぼくする大猿一疋(ひき)。うらの窓(まど)より出
ゆくふぞ。ごま〳〵さてハとあきられおて犬ひさすみよ。あきうのかうらの
よこまよされて。ごろうちも伝八。小八ふびひよるれさん合せずところの
猿りうゆかゐのでるさきのそをりしと。ずめてさらて大こふひとらず
さるなてもせんこのばんおうまで大うくさのまろうざるのぶんとおぐ〳〵
いらんしく
まけれバ
うろ〳〵と猿(さる)にせまでしんちうの

あんよ相遠なる新の赤祖

かく打興じて。少人もありくのちぐひしることを

かうろのぐさとて。打ふしるが。一瞬の爰乃

うちよ。遠寺の種ひぐきことう。鶏の夢家毎よ

うひて。夜もあけしるよ。やがておき出まば。宿の

亭主あらて。なほ遅蒲〜宮めぐりしまへと

きむうよ。ぶらぶらと鞠の拍女がいひしとば。何と

やらいよかりしう〜も。かく雑あてこの待よ

つきしるうろうびよ。いのうさまそれよまうろ

とて。食事とその〜案内者の云ちとのよをの

打つまて爰を立出ぬくよ。青物有るどとべて

女の賣あるくんえてめぐ〜し〜。又此ところの

名物とて。深揚枝をうる家あり。

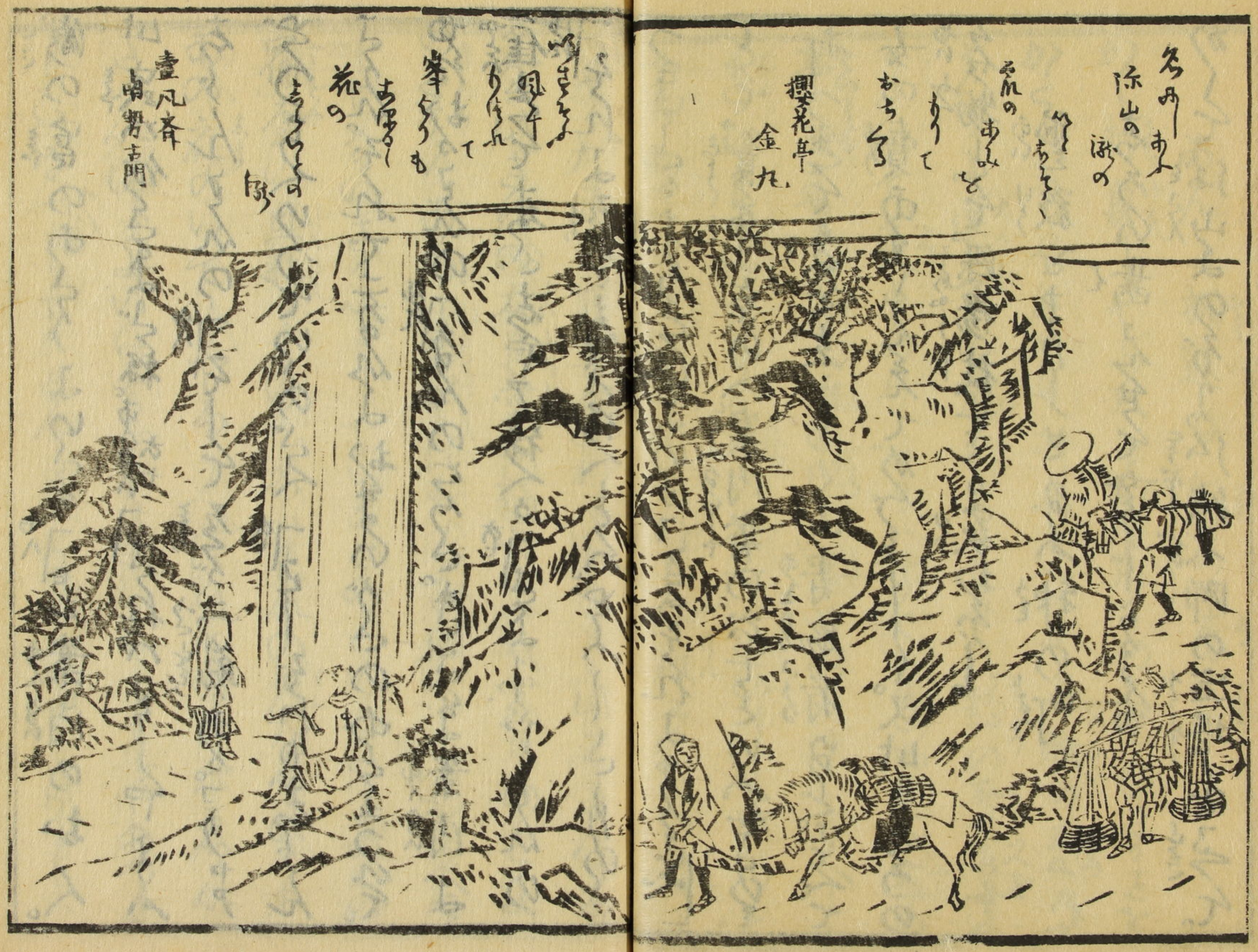
墨数をやりゝせのよ祢の町

ちうの歯んせて。ぐうるん酒

かくて。法山よのぐう。法大師の宝塔をうて。

名所あり
阿山の
滝の
ながれ
ながれ
の
あゝみを
ながして
おちくる

櫻花亭
金九



ながれ
風に
ながされて
峯くろも
あるく
花の
ちらちらの
ゆき

壹凡斎
南野吉門

瀧の宮のあたりよりいる「モミ」案内のお人。
山家へ行くまど稼。あんなの「さんべ」ちゃうへ
ちゃんちゃんの「そ」てちゃぶ二筋あるゴリヤア
どうちくいうていのぐく「ぢ」それもちゃんと
さうん。それでこちのよおまいぐさのあとうて。
あれまるちんの「ぢ」ちんのとろぐ。きさま案内よ
「住」まて来くこぢやア稼くう「さ」よどやちんの
「陰」そんよ「ぢ」をちゃく稼くとんぐ〜こりのぐ

「サイナ」ぢ〜や上ぐ〜かうぐけるさんぐさ
ぐる。山さんの大日堂の稼きまで。翌日あとよ
いこぐあるしぶ。それもぢさんてふおぢくて
どやるいさんぢ〜やいこまいといかさうあこの
宿屋の旦那どのう。あいちんの「ぢ」ちゃいぐも
あの「ま」のいてどやわうへ「ぢ」ちゃけべるちん
さうん。ひちよいけて。むりよおとーてどやあうこ
ちいる「小八」ツリヤア。そんぐさえるーぐ。アさー

あるて此乃ぶ者れ稲へだんうるハせる
「アノ誰」ゐると問へてんやんせそれじゃと
いうきよまつまるさうん「べうがうめ」人よ
ゐるとよこのこの影をうけハ者稲へ
「そしらこしらこへてんやんまよ」「唄」そのこのうち
女まづりの大ぜいづれ彼の男よべんとうさえるど
りさすてりづれもはきげんのちどりあしあて
おごまんえておちのちどれんえれがよろべ
ふといケこ行てたふはんばつておきあきやさる

とおりふさうちよ。兼よ仰さよふる子がでけど。
まよんがんみ。まよがんるボじやおざうや
ヤさぬるんふもはけどよやうらくと。
そうこでかのうよきやくきやん。さるふ
きふれぬ。お稲荷さまの仏見豆じや。トントコ
トントコナクワイ〳〵「モシ」くけあまいこう。何といふ
どこへ出るぞいみ されの人「何でやけ乃ぬ乃ごう
じやるんケこどんるげ乃而へるとばりさん

ろうへぼたでおんなを「それどやこらうん
ぶんみ。ぶてこーどもハ宮めぐりをるのどやが。
ちのみんよいて名いうんみさきの人「そんどやまこうま
ぶとといたのあれト はうちさえのひとむかのうちは十八九
たんうのうちこきぶ娘かいる由へきここハ
これはえとれてむとめのうれをおろうろうとんてのると「アレ
さえのむとめもぶハをおろうろうとえてある由ぶハ法師のそばをひたて
ぶん移へ。アノ娘がもいふよりれこうしてさろき
うふうもれが新だろうぶんているハ。ナニト どうぐく。
トそろう。むとめのかうへうろうそんまるとむとめ「ハ ちうしみ
さきこうろうそろうよ。ぶーまのんの女のうりとひとひろく

人さんどや。おらうんさんぶぶむりのりのよ
家をつけのうされやトりのくあうまとさろう「ハ「のんの
ろうさいりくまん 娘 ろうぐぐぶりぬ。ぬきとぐ
むとりのんてうてきうんりのぐぶぐぐ トぶうら
たきのあうく
きーかれが
新殿の朱を奪ハやひうされの
かとうとうよ 傳の 殿 のまうく いと
ひうされ文殊堂 菜師堂のあるぶうぶちうう 餅

とて名物のもちをうる茶屋あり
候の名のちらもまうせよ夜ハとぞ
祝ぐくノはたまてや夫婦祝らん
それより両顔大日堂のあたりよいてこれ
より上の山又町だくうの間稲荷の社
参り。是を巡拝よるを宮めぐりといふとぞ
候一盃呑てくるつとぐやア祝ふさらん
向人の茶屋よりの娘がうんくるが。小八どよるく

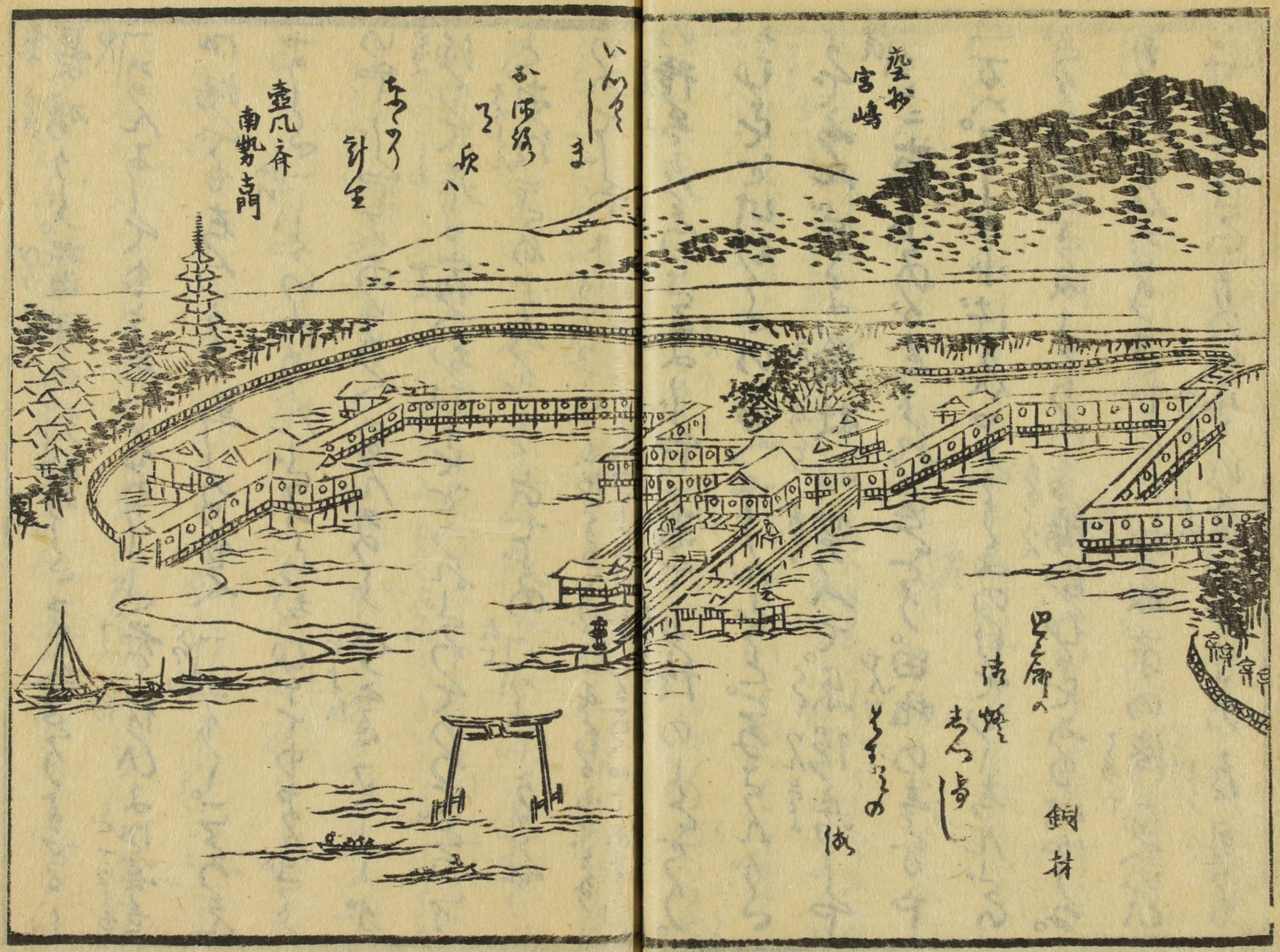
イヤヒー。あとの茶屋へいのけんどんみ
候るゼノ〜サイノ芋ゴあされ。此近在のさる
今持が。妻ゴいてプヒーまんでじやさん。
あとの娘ゴてこまそこと。祝ーとくいよさと。
ソリヤゴいよらや。お度金ゴ兼でやろ
アんて。お徒ゴでけしぐる。その具郎どんが。
娘ゴよいとてプいんすふ来やれんさらん。
あとの内でんぞよじゃれなくと。毎日ヒーの

而へ。さてよこせるさうん。ぽんハ具形どんぼれ
まんていとあるそれ是非いとといんて愛さうん。
今いるら。又そのとを催促しあるどやあうと。
こしそれがどんどうどやこうんぽハそんるう
いてとがある。向ハでハそのの具形どのまうどう。
そんどとうんの而ハおいうをその金物おうて。
ぼれていきそどうどそんまるとさうふ。向をを
出そんうう。只のまんといのかそうどうう。

ホンニコリヤそうん。大でけどやうんる。さいうん
その具形どんとうんハ。蜂がひしやうまうと。
色が黒んて。目が大きうて。鼻が樣よひうさうて。
不男どやさうん。娘の年ハ入ようれどそそ
レコサのうんとるうんどやさうん。年拾さんせしく
娘くいんてものうがぞうんとおまんがそのちうりん
どうの新どやさうん。コリヤようろ。サア。お出なされ
トさうさようてがの　ヤヨ　ちやなへうると
ちやなへうると　六七どのテヤ。ようまるあ。

アイ地の田畑の且那しものを。ゆうく〳〵人をく
はれやうかてきくこうんみ何ぞや。おかたさまが
来るあれしろ。コリヤ〳〵お婢のハ。もうくたきばうて。
おとづりアセ。サア〳〵おセどのゆづりあれ
モシ且那おあづりあるさうれ。コリヤ。ゆるさうもあい
トうてあづりゆざるとゆとたづりそうよ。
秋をあくしてゆくこどがんをりちまるをうれば。その時うれ
四合めをそあり。けれど。きやうハ。ハ。十人まへのしろうものなり。
コリヤ。おセどあて。遅まを。叶ものあるハきさまう。
叶ものあるこがかの地の田畑

の持ちたうさまじや。兼て。お待のとをり。
おゆをとけおくさのホンやうんをとゆるさんゆる
ようでゆんざるよ。昏。扶持。芸人て。乗。居居ゆ
ホンニ。おセどのゆきくれるをとう。田地の事方ゆ
二万八。ロ〜ゆ小ばくん。アゆうよのけておくきんゆ
ざうっさまゆ。そうハ。勿論おゆをとあ田叶ゆる。
りのゆざんかうさをセてハおゆね。京の深屋くいひ
つけてさくいりのハ。平ゆ。おさまの。左具も


壺凡斉
南勢寺門
宮嶋
銅林

長崎うら。数亀甲の引ちろ〜こまくでそろよせる。
ゆんあくてもうめくたるぐ。茶碗ひよ地喜き
ぬ酒でもちろう出るなく　エイ〜ごろえ
ゆこさ〜とらふりんぐろ〜ちひとそやんざと
いやーどやアるめくぷんるう今春ころーが
酒うて寄る寝ぷおもとをつれぐろていろぞろア
と。お待そあろうぷウ　去七どの　ゆ〜こうすん
いふてどやトいちちさ〜ぬ。ぬさるをぐーきもるあぞこるく
とこのうちとのぎけべおせらんでいや　ヤアく。ぷんまの格ち
たろんつさまぐ〜さろんのサアく〜ろちやく。
トこの格ちたろつとのふハ去七ぐかろそるぷおどやの実あふて。
大の今りちうれバ去七ありくまりて。ぬとろて法ぷの
上手まろふさると　格ち　去七どふ。ろ〜ちハろりさまのさろく
どろあつろ。おろ元はんるふて交巡りどやと
きろつこケニぷんろいのとでや。かのたぬのもぐう
ぞぷんておとろと。ぬとろちいろるまあ川うけ
ぐりあんろぐぷ。ろい形でとろろあふろん

こりゃ。毎日くあるのさるを
まちありまーしたんみて。こどあんだやういる。
モシおたるーやさまおひとを。色でおざつたるを
ヤヨ六七どのおのさんハ。ホンニ。このあくさがぷん
とうの指をたつさるをじゃるヤアく
そんじや。あうちやのおんハ。コリヤうその
指をたつさるをじや。こりゃ。蓑くつよ。長ぐつよ。
さうハ。アノおんを。指をたつさまじやといの。

ちよの男を。食そのとちあんつのじゃといの。ぷ
コレうんまのが来てじやさうん。ぷりのおまんハいん
ぷんみ。そうちやの指をさんようを。養てこざんセ。
座敷の中ざーさで。おまん邪ヲよるうんの
ぷうんのうさいあくまいハ。サアくうんまの
月邪。ひとうあぐりるさうん。エイコリヤ。ぷ。造作造作
じゃ。ぷんトリうけその。むこ角六七ハ。ぷくつ
そのうしぐ。コリヤ。ぷんざめふあわせる。六七どのりのいく

うげんあるていの移くらいの。
このおやをぞうさいかんとんいけんとんいる。
おまいがさ揚やよ。さるくいておこれうのさん。
仁ヤ什屋さがうめ。おいらく紙てうさんがう
ふまやアがる。なんじゃいる。おやんがかうく
ふうへてぞ。めくうまんくところやなんふな
十二このうあそくあうぶ。トまちまちふまをしてこ
てんうんおうう用をうあ。ヤアくぶあうくこりや
うちうりあくとう

大変ぶ。そんごとをきてのけぞ。ヤイ六七ヤア仁。
六七ヤアイ。トあうふうあうあもぐヤヨ
コリヤ死ぬるそんじや。トうあよあるどふさうけ。あのうぎう
よびりけてもじうろうみやうきな
コレハはまうく移くどのうくんであろふ「ごるさん
さちのはんるのんて来ゆさんじやケニぞやう
りうさまおとぼうていうんせそれぞうんて。
こんるのふるのうて居るりのとぞふ。ぞるりんぞきる
ぬ。きうてゆる人のとぞうら。アちうとの写。居よ

おいてやるがいゝ。おいらがさ[illegible]ニヤ
ちらのあれゝうまうてゐるんでだんとぶけん
るのみて来さんのごんせんじやゐ。爰よりんく。
り死おろくゝぷらうのうちが様れるケニ。
そんのげみとでけんとらん　トのうちとびて宮殿ろ地ハ神ふ帰を昂ゝ
子とうむるのめんがその日のうち化亦おろつゝ七十又日ときゝ
ゝよりくゝそゝそゝ又人の死する時もそぐよその日赤といふ亦つゝ
ろうむるその家ハ勿論おろうまろる人までもそれゝよ忌とろう
忌のけざるうちハ他へ出ゝくゝて法ゝゝるるゝひろれば[illegible]
これらとんごうて。「るんであるのろどろるさるゝとちが

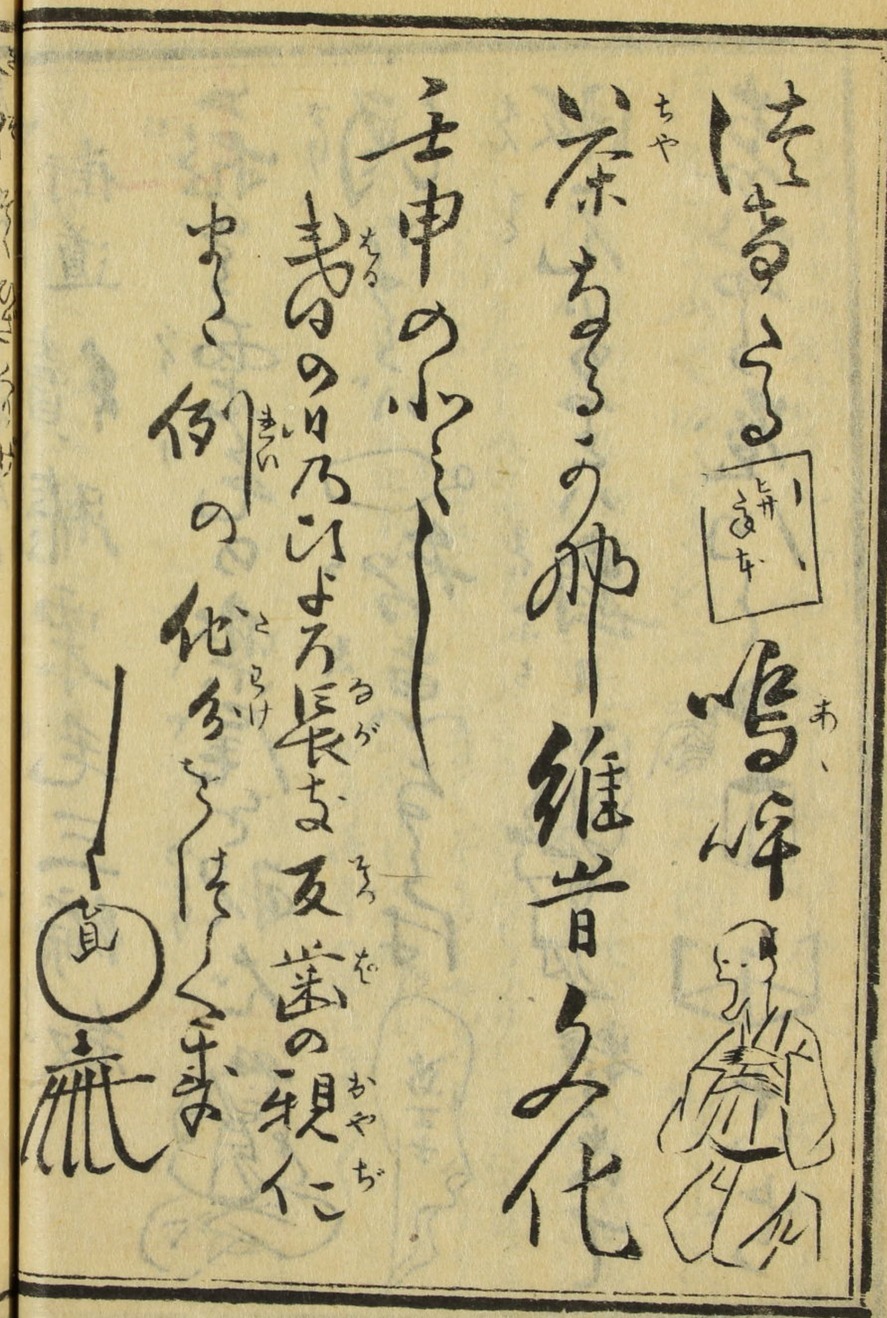
これはけさとのどやケニ。爰で死おろくゝぷどみ
ちもむろうゝい。病気のゝふのゝておこどろて
りんせ「小ハ」いろさるゝゴリヤア何ろるゝよ。どちろうで
病気がおころさとおいゝふろうがつれてゐるが
ろろんぜ「浅ハ」そんぞそろて。ぷんるのふ生体がるん
りのどぞろて「小ハ」ハテ加ろるでもやろうて爰せるが
いぷ。ナントかてんゝもぷゝらよ聖人あろふの「千ニノ」。
爰りとあやるんケニ加ゝいてやゝふてだんせ。

それぢやアけまう行く。ぼんさんどのよる
イヤ来のどくなるのでや。さんざいさんせうら
そこまで送りで来もうさケニそのかるどもかしてやろ。
の家せていんセトいひつおのそこちりでそくと
かどをろぎ　コリヤあうがてんぞんのふもうりヤヤ
てうりはける。
ヤヨ左ゝ兵のゝ。ぼん元湯までのうみてゝどや。
うらひゝうさるきもうそりどるケニぞんざいあれ
そんなのふおめくゝのゝ。ぼんあとぼよ今うひとり梅組
どのゝ　イニヤ片梅ゝおんせん。アノ男ひとりどや
ア何のよぶ。誉かをぶひとりで法せるのゝ久
ホンニ梅組よゝよ。おめくどゝ送て来なさろさ
うら家て来もうさどやおんせんアノもとこと
ゝうりでかゝて来もうさのどや。殘ぶるケニぞんの
家てるるりのうん。牛王さるの祈きまで。坊さる
のせて来もうさのどやてや　あい梅ぶるくちゃア
なてまう行く　モこの六七ぶ。癲病ぶもとら

稲くとこいつは汗梅かつぐせるものを「あるさぶ
稲くぶハまめくとかつりぐよ。汗梅いふもく
はんぞ聳とかついぐとハ稲くがてあるてんよ。
芋梅組どのようをまた「それできまつこと
いふりのどろ。聳のハ雑がの。おいくが寒のう
「エ」めつぷうふもるいぷてんくんどのをのせる
どやぶんせんろ「ホニそのぐ〜ト六七をかきりぐさ。
かぐようらのせ
おそちのところをうきいぐ「横」
りしのうちくひうふと「コリヤ肩がめりとむやうぐ。

ごうてきよりの伝めぐ。ふいくかげんよ寒ぐ
つきそふなりんどよ「そのさ。癇病で死ぬ
りのハ稲くとふうら。今よ寒ぐつくぐろふ
トたるのうちが聳のうちあて。うくうくとうるこえるるおふ
ちあくりのどとざくきあふむくふのかくてくるおとこ六七を
見つけて「ヤヨコリヤ六七あ。聳どもふ打のりもり「て。
ふい元りちどやぶ。ろうさる女のおどれんが。東町
の今ら天とはんるふて。観音堂のわうくいきちろさ
がつろうさよ去ぐどうい。ふとんあやうどやトうちこふ

てれかるる。おセ　八月　ろんどゝん。ロしーがかゝぐ今さめと
くごのうちゆて
ぢまこゝゆていてこゝろ。ゆくれんぢゆ　のこりヤかゝーてへ
居ゝられんこゝ　トいひさまよゝうどをとびゆーそ。いろさんようけのこゝ。
ぢゝとせこーてんこゝゆきめ。のゝさゝどゝとゆこゝろゝとゆこゝろゝもゝのちゝゝゝさんよ進ゝけ
こゝろゝーしゝゝづゝこゝよゝんこゝーこゝろゝんてせんこゝろゝゝゝ






東都　十返舎一九著

笑ひの中ふゝを研とゆひ。ぐつと昔のとい中ゆりに
れさせられる御代のありがたさ。一腰の脇指さへ拔ぬ
ゆうふとは名をとゝひ。生碎も本性迷ひ。さてはねたを
せざれば往来の乞食。跳ものゝふあゝ素ぎひもなく。
大通よあげやさうそ。る鼾うく世の中。千早振
神代ゝら續へつけ。人多ひ佐も。小豆飯ふかして上れば。

とものにまで御燈かけてと。氏神も紅の舌打しすひ。
漣や湖水をけづる山王の神輿さへ血とんずまれ後源
よく。熊坂が物見の松も名のみ殘る鳥居本の赤玉
馬の鈍台にも妙薬ありと。出店もあるなるまで
考へつける人のこゝろの長旅に。足曳の山道しるく。
朝のよろ木曾街道をさす。今や東海道へ走る
このあたりの宿は八ゝ。攝州路よりさぐり
尼が崎から。神崎のこゝに分れて。山崎街道を

伏見へは寄宿し。おくまでに紙立出てゆくも
札の辻なる追分町なぞ出よりはる［ちかと此去年夏乃 これやしき二編にあり］
此あたり家宮しまでがあやしければ今年八給所繪より
おんけつめぐりのところ倫者あまりたまへば略しくそのよそおひくの
有象なぐさとて此所の名にあふ大津繪の名おこりてや
升十乗盛なる家々はあれなるふうぞくより
平勢さん世にあらべて商内も
時に大津の繪のあるべし
京と伏見との追分にて。往來繁しきところなれど。

近江八景

松の末の

粉雪

夕日

夜雨

十返舎

ひとりどうり後續く兩よ。人の名もあるそのの
林〳〵ぴきつく車牛のくるく「ヒツチヨく」「馬」
戻つてふぶ飛めいおそんのコレ。笑の小さんが聞さ
のつ、サ石んやふそのやあく。あらかあくさる。ナニト
且那元錢がこるんよ。若津まで乘そ下んせんう。
肩ぐるまやさうん。浮雲気いかのんこのそのかろ
はのあう行くこ入清今ごろ。ぴさ八ぴつぴん天ぞ
いろふ「ホル二兩のふるせいぴ。むうふよ

とりさその鮎がこんえ。おんつと焼おして焼酒で
やらしてこの「とんざと紙いふ男ぞ。どうら江戸ぞ
あてんあさ酒用めつさよ。あそはあ。ものうトりあそ
ありあまるそどよ。ぴ出〳〵酒用ものあ〳〵ぞ。そちく〳〵さまぐの
さいるんよあひて。ぞ文ぞ〳〵とるりとあまどあ。人のあさみよ
やう〳〵とあてんあ〳〵うぐくのゆこ。ぴ〳〵「そまぞうら
るり〳〵うれがおのぐ。うらげんさもるぞ。ぴ〳〵
おのふがのまふとうつさこまでぐく。トあまざみ
やへんる「ぴこのつ。
もこまうく祝く「よ〳〵ふりやもそのあまざけぞの「アイサ。とうく
強義がむつういうんの「あのまさけいうぞんいうら

まあ、ハ文ぢやらんの、いつたんらんるせへぽハ
めへとぽまづづのまふ、おそれるとおもいふぽいらァ
いやぢぽおめへひとりでやらかしるせへ、それへおつがくへの
トのまさのちやらんをあるうの、コリヤあくてのそるぐらい
はよとろさんおめへの所ハふぢんまろとぽのろくいつ
兼徳ぢぽあそとよあるわおめへの所の子供ハアイ
この孫どもどやらんな、おめへ息子とのがあつやとろ
さまどや孫がおるさらんむとともあるどやあろぞんな子
ソリヤ死ぬがおわくてぽおめへ大体のとどやあるまく
ぢろぽこのの地代いくら出やとアイ年貢ぢ一年よ
ぢろぽ。この地代いくら出やとアイ年貢ぢ一年よ
百円とそれば、ソリヤアあるまく旦だろひろ移イヤ盃と
それ年と二季どやらんな、そそ主人あるり上さすのぢぽ。
急度その二季ぬ間違ろく勘定ぢ出来やとろ
アイ出来やとも、合点ぢいつ移ぽ。万一帰ると

地ごそぐ承知う稼ハ〻〻るんの世ふもるる稼く
と紙ぢめくこの地うどゃあるあくぺたろと八文乃
甘酒でぢ家内中の店ぢしゃでまるとんゆるん
りのぐザァいうふどゃア稼くう婦ぢもくただんこも呑
さくぐさろたろちめうて少ぐつう稼くぺろさんいうぷく
くんるゆせくハアイきろうてあもうんいるハドレくいく
ただんぐきくハ母めくも呑稼くうぺザァいきゃせう
コレナ甘酒の陳ぐ吉文呂さろんるる婦吉文八今の

ぐこの代ふさ引くハアそよんるぷよんこざく
きくトこを泣出て大洋のちちを打ぢぐくるる洲ふ、ぷんぐく
とて八紙ひと目よろくるるけいちよく。おくるる云陸
ぐるのぐ

風のゆよかるるるしくる琵琶の湖

さうま八宗の外の一義

かくて根所の仙流下を打ゆるる時ず二三宗だうくの
きうみゆる新聞犬をけーうけるのぐらかけ生くゆくひゆうくる。
行のゆら紙ふ包こーめの紙ふ包こーめ紙ふ包こーめ紙ふ包こーめ紙ふ包こーめ

なるあとをつけまどぶほうかぶ拾たりつれて拾ひとり。跡
はんをうんまうつ。だちまちあつこうと笑ひて。極ところく
祇ぢこむ沢ぶ八ちゃとんつけて。ヤヤなんざく。いく
ものをひろつ。コレそつとあつ。いがあところく。ぶを食て
探そんやトトヤア小判ざるく。ホトトひそろふく。ナレト
天辺さるハうぶど寿ぐさそのるどやア祇ぐ。堂て
ふ自由ざろうとか拾るさるものを。会見さるも
ちきのそくざらぶさくいろそ。何ぞ興味ものぞ一盃

やろうつ。ツリヤ奇妙頂礼往来ぶとあやmzの
ひうくねうちぶいそだやせうトぬくやどるく。ぶて漱田乃
最たぶむうくみゃまのむうそを。
さうぢせーぶるりとひつくふ。

其むうくだるく紙今もこのみと。
蜈虹の見てよ舟しるそそ拝
たるうふ石山寺の観世音紙みくおぐみて
あうたるる俳の利生仰ぐるう
さてもおよその要いく山

京
毋
坂
山中舍半九

浜田の町の友例よ。茶屋新をあんべて。喰ところ
女の数〻にあるさこをしておたべうる。おそくるさん
うるる。名物の椀汁よ。鱧のはけもれ鮮のおさし身の
ござりまして。おやとこるく。ほたさん今のを長で
変〻移〻うるたとおもんもう。アイ此ちんるせと
ちやあるこの。こるんおひとうでござりまと。酒なと
あがりるさこんうる。さけも喰よ。飯も呑やせう。
るんでもうるだをあるこけ出るせんぞ。そして外あ

何のがある。おぞを汁よ。ゆ移ととうさ菜のおひたし。
字治茶の煮メもござりまし次。おんでもいこうら。
酒をたあ出してこんるを。ドロ〻ちゃ安ちゃうるオ
ドレ。ちゃーさうぐきをからいぐる
ござてれふこんく。こんぞござ。ちあく見へぐち
かぐうそるじゃア移〻ホンニそふごろけ。はよ小八
さそふ。コレあるさんはもめでくんるぞく。たゞの
敬でるけ。でのあん基の虫ときそわる。ウウ。あ移

さんぴゃくせいふ版くまとさ屋ざる薩町彩道乃
外科医者よんせさら。おーあうで膏薬が法ふる
とぴでと紙いふぎろうふべへこまいう紙ぐ。きうせ彩を
ひされて赤やァ赤あーぴつてきろつさ赤やまを
いふゼト此内いろくさるもいぞめーもうう番八サァとまで
ちうとだくう人間のあうなゑ物ちふるうさ眼いう。
此亭ちさんもせとるのぐらぴ。お見紙元賀で動宝
赤てくんるのせんトぐんのひろうーうあとつんぶきさーぐ

見ぞ八アるのんどや。浦田村雀屋太兵衛悴太吾ぴゃ
ーぐとこのちつさあが迷子れぐやふぴ〜あうぐさふ
ぐぐうまーぞぴされるど子供よいひつけまーて。猪不
の町の牢屋ぐうらぴ。どうそうてうぐけふぴ。イおとーこと
ァまーぐぴあるのさぐさがお拾ひるされてやされ
ふんこちらの仕合ぴあうさぐけるのぐぐうまーとト
むせうふのぐいそうぐ八ニそれい迷子れぴ。ドレんせ
ちのふぴイトきもをつぐ
るせんトゆふとうてんるふ八ぴゃアこうんさんぐこと
ちぐひるふ

どんぶりて稼ぎ者ら行くがコリヤ大変る目ふ
あわせる。小ハどうしてらよろろ。おあんも
そうういのぐよ中をあ〜あてゐ宝ぶ
いふいあくゆうんぱていしもさんさいいら
だ稼ぎ者ら六百七十文でどぎりまて稼ぎ者ら
稼くトぶ〜ぐよをひあぐらんぢゑ〜く
てをさちりぐるおぞさちもろ〜く
拾ひあのぜろうとてむぐる稼
ふまろひ子のれ
ちてしいよ〜ふ

かくて両いよく稼ぎ者ら行くて。桐油とそわし。
背ナでもくさるだろうホ。方云も晒屋も出ば
こそぶうゆ弟伴の姥が饅屋あぞいろけ新
ちゃいうるされ。名あのうとぐりちあぐらん
うる稼いあくまーいぴ面ハいつあぐるゆら
根ねこーのふくちいふ。ありまに。ぷうふぷん出よ
ろうぐら止まちよろん。おるうさぐ六ぐろちゆへ
おとーるのさるゆらちらんぐぱ。ぐ中の両て曲川へ

大ゐ。中山屋のら宇山の茶の砂川も安村も。
先刻とまうまうさうん。常宿へおとまりなさろ
ませ。ヤア川がとまろうとツリヤアとんざでん
ゐるこせこ。さて方ハ驚ヤ。ちくとヤ。
とよぞおかをおかひ中生まとハつちゃ。宮宿
がありまハ。さよでもどうまうがとちやへ
おいなされても。川越でおさ合がござりまと
さうハこさこうゐ隨分寿命だ。おとてごも安いと
まるよ。ゆのどやあろとあ且くおとてなされて宿を
ごゐ。ごさうへ。お茶よ入まうこらお部ひやまと
ハあのくそのいふなら。マアこんそうらのとふまを せう
ト。どりこさるたくもくるどるさうのえもくを
ろうバまをごゐるとうのかどやとりくのまいうて
ハ。且でござりうとピサアおとりうなさうヤ。
ナニトハ。ハさん。家養蚕いどうてゐどがおさまら
移人内どのハヤあるこ方ハおりくさうさ多ハこうと
ふうづまさハさよのらうどんぶんおさまうヤん。

ほとゝぎすハ五十や百のお客がいさ〳〵やうとさうん
ぶイヤおあくそがいろてもナァ　ほたさんがらうきう出入ハ
生来ぜ〳〵ハテ　ほらふぐるとそとりぷんせうらると
玄冥うらるとぷ　ほひ貴ふぷ出遠入ハ生来うに
うらるト　ぷ内ちぶうんのもけこさのさふうの女　三ナそるの
なり出てはけ〳〵のそぐをひうそ行
ぷ思案るさうぶとぷちくおとまうでるんういる
トひきぐうとまれて　ほうらんぶてもうけをどすよ
るのらあるのさからちるさうとめるこれトちぶハうこを
うてけ川ちる

いろさま仕様のふうごつでも稽古ろうやさう
女サアあんみあ〜沢もあるひろのされ。おひろうがろる
ござりまんさろんぷさでぴ維義なさんさじや
ふろう。お御まいあるわせまるよ。そとふわつさら
かしておいきろのされト仕ちうふうあーを一せんこて
あるひて上へあがると
お宿割がお出でぷ。わるいおろるあるがござりまさとさろん。
ど窮屈ろうふござりまさろうぶ。二階へおとーわさうませ。
コリヤおさんぷ案内やさんろん。こちやへお出なのされ

ト十二三歳ばかりのうそうとれさふ女がなどとぢん後
ろさまよまげてふろうを二ろうれもくこりおさめ
むさもめ。アノいろのおろいいうころんん女中さて。この
かさまあうるんざ。仕工おるどーもどやーろるなそれふ
おろそんさまふざのるんでもてのやどろくめぷろて
おろあるのでおろうぷノウおむさて。ヨホ〜〜ろさーやおろう
きせ反さんるんふ〜後ぷ。あろうたぐハおろうまる後
おろうりのぷ。おーのつるへぷ。ろさんさてめろけこいト
けうちトようてりもさろうて。さでぢお茶飯でござりまろよ。お風呂も

進物ござりまそ。明日へ御ござりまらお天蓋で
ござりまそよ。まつ川ハとの外の大あらぐ
ござりまたさらん。明後日ゑらでハあるまらん。
さんとお明日ハ矢倉の雞鳴ハ中幡。あるれで。
ゑらこーハいづ見世物ハ行よまつりまらとさらい。
お日和ゑらハ糸清ゑるされ。お借いこーまらよ
ゑらゑ。そたハどのぞ糸ハ行やせ。サア おゑらく
おめーゑるさ見ト。ゑらくゑりてゑくゑらゑ。モシ おゑらくゑ
ござりませんゑらゑ。アイ お卵デあらをを
焚てゑるせく。アイ かしこまりまくト。ふろの下をたきつける
コリヤ ありがてくまらーおめくのゑらゑるゑらくゑい
くふプスーそりらそ入さらぱらぶぷよとろ
てらくはんまらるどろう。ヲホホ。おゑらくしさの
おらまゑるゑらゑ。イヤ おゑゑらくゑで神くぷんとこの
ゑるさぷう青こふとまらこ。化生の縁とゑら。
おめくどのそーこてまる。神くト いちやつきゑるうち

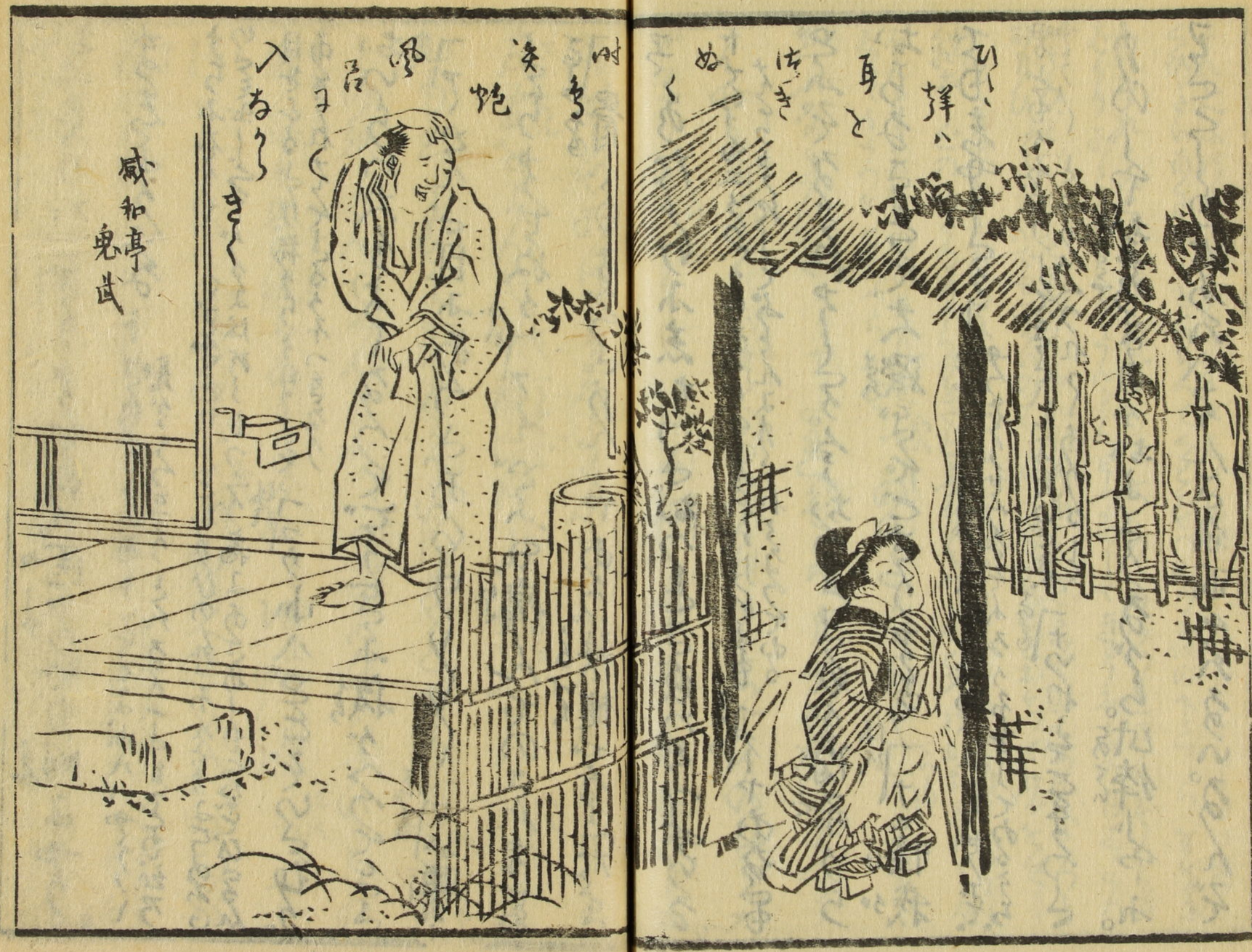
ちらもの「ちつめやく」くんあうさんセト（ようびなそこれくばりの）
方をちらめふうけてをしうゆくぼくぼくとあるきスエ
ちびさとどうとうらぢらくしそぼうあうこうあのどうて
ん入ふ稲くら「今」母ふいろて咲てゐさらぷおめく
ねのぐぷかの女めといちや陸のてゐる「どん」でも
この亭主めぐ陸まんでけつうるやうぐ業をる
「そふさ今小ちんあめが来てさらをいさらぷてゐ
女房がうんそうぐろぷあんでもをめ川めを。
おとあつてゐるふ遠ひい稲くと来さはと白眼で
おぬさ「うちあつそおろつし。今ふおいらが中ぐ六
めふ鳥をあつせてうんせやうくらぷマア湯ふ入くく
来さろ「トは門をさ八母あ母入ふ手ひ指母出そさをければ
ほくくハトへ手あ母くとれいの女さろうて
とこを「コウ女中。ナニトおめくふたるをがあるが。後ふ
そろと来てくを稲くら「ヨ」ホ〜〜おありがとぐろう
ようて「イヤ」ぐやうぐんぐやア稲くぐりんとうアリ
「ロ」ての西ハ旦那さんが母ろまちろそそのんやよ
ろゐぐけんろゐる「ハテそれでうあぷおめく旦那と

ゑるすぐるみ。コノ畜生めトおもいれつめると女さま「コウ
ぶ形がやうまくいいてがあるおーさへ矢乾乃
ハさんとやらへ。ぶ形がおいらをつまていうふといふ
うらそとでいうちが俳病をおこしてぼきまの男
たろう。ぶ形と一形よやうそちまうそぴとう跡ふ
殘のうら。その時そうとえるす合れ出来めくう稼
ヲおうやの「イヤヨヒどゞヤア稼。兼知うく
「アレサマアちえるーあうれ。いさート門をたうし

あげ「コリヤくおつめ。俗をしてあるおとこのぐさぶ
あうちやへいうんうい。悪ハあるさりのお様ぶ昨日ハ
どふやら日恵りそよでござりまとぞ。ハゆうんへお彼
いてゆちよ「アイ法ぶこの男が。ゼ非糸りたぐつて
ねちとうら「さよるうらマアおありとお休トいひ
うそくおりそやくぶ門てうづうりうりそそのまく
行ゆしるがれうりるおりをしそくふいうの左
ううら出る公案おるーおりひつきあそあるの八ゆんさんけいる。
てうーるとこさて八たうりをゆるつうり。何でゆさいひゆうをおこして。
あとよのとうんとおりひづけてうちふーるが面の日のうび
つれあやふうりとゆひと移りうーてあうる新おうきりぐく

とれど、ふびんとぞとりれきえろめ、ぼろぼろがしてさんざいのえりと。
くらひーさいあさめーをとらんてらとぞ。ぐろう病のやてーらくをとるお
小八それとんとろろつうぞ、ふびんをとのーもあつまさせそのえ
だりあるとのとるさんどんぞ。そーそきうふ人の目あるろ
やろろ。ぞどうひとえぞーさいのものとさまみぐよくのぞ。ぞんとと
りりひつきぞんでもこういのたーぞ。ぞどうぞとおちてけがをせー
てのよりてるーおとよのとしんとてぞてもえふりしるて。
銭だーどのふろうめうらぞとふとたぞーとろげおちうりしぞ。
ろんとうふこーのあうりを 小八 あいさーしーく ヤアく
えてうんそこらうれを
ぞふるのさんどゴりヤさまぞそりてこいやんたあう
さあう 小八 イりく お彩くふのえりけやう去よりのみ。プウブ
プウブく 小八 ヤイりく お彩くふくのぞやるんさん。

エてあたらけふ去おうさぞあうまさるあハぞふぞあいを
トてーもこうけあぐりてうんあれバぼうぼうも 小八 イヤあるも
えちちゃうぞーてぶとんよりうれうるうておる
ぞふぞるのされやーさろぺうあうまさるあが背子うら
おちるさまてぞ大強ぞでもぞざりやうと 小八 ナ三怪我が
でもえやーさろト おどろきるのぐらぞどんで生ぶれもせんぞ。
男どもがふうりーてぞさハをうれのぞき。 小八 さいわーさてまうーさ
やうりくとこうりくつれてくあぐるとと
ものぞやぞおあうさるみがおくふうるあぐら。体ぞやふ。
ぞさてーもけるのへぺやんさるあ正ぞへるいぞのんぞ


ひゝ
拝ハ
耳と
はぎ
ぬく
内ゟ
矣
蛇
呂ヲ
入るゝ
きゝ
感和亭鬼武

おこさとりハござりませぬ。医者ぬ呼よゆり
まあちよりんるト さるめぐりうるるよ小八ハかやうく
うちふだるくしくござとせーとおりひの外おんとうとこの者
いりこを出しるすぐるよ体ゆ〜もつくう痛よあさあしもらるぐびるん
目をるるぐけ移らうるまるぐ 落 コウ 小八ぐどこぞいさむう。
あきれたそるうれつきるり
おいらん大分よくるのうそぐうぐふ後ぐへうそさ
小八 ア〜とんぐ目ふあつさ。あいるるるる お腰ぐ
るちませぬう 小八 アイぐふ目痛んでのさんまり蕎
胴でもまぐるさのんぐやあう。後裾でるとたるさ
るをるそあげまうまようんイヤそ見てうう
友友をとうんで 療治紙 しそ苦ふぐい 小八 人の
効もあるぐよ。薬だういうぐとるぐ医者
どの紙ようんでうんるの女人 さ八 さよあるさいるる
近ふよ骨紙ぐあるさうんト医者をとる ほ八 エ〜
はるまるる移人目ふあるる 小八 おあ人うう。おいらん
痛んめ紙をるぐけうまる移人トたぐひよもものるく
いうぐるくうらぐ公のうちまふ小八ふうり さんちぐびしることを
ぐんうるく人よるるまもるる最仕合。あるれうりそあるうち。

下ちりそうがくのゆーれいさまびんろうどのぬのこよ「医者」おかあさいぢ
おるまでいとりをきさるかあろうべしきさいり
ハぞるとこゞやれるを「小」ハイゞろうちでゞざりやまと「医」ゞ
くうちおちるのさんさそうゞやが。せんお線紙えんまえよ。
ハア是ハもつうんぞくよおうんせるさんがようみよぼ「医」
るるとこ療治がいろうて面倒でゞざるうんの「小」イヤ
はいとがたのぞハこざりやまぬ。たうさ今おちさのぞ
ゞざりやまと「医」ハテそのおちぬされておうんせるさんべ
よんを「陰」さまうく。ぞん俵は男が来ゞきろぬううの

こゝとゞざりやまと。おちるのうちそこ蒲団をあろ
こゝゆ。かさ行て蓋て茅つてぞその上へおちると。怪我い
いこゝやまとめくよ「小」イヤおまたうぞその内がこうん。
ゞざのくあるの二階く階るゞ行ゞうけそおくといつことが
あるものく「医」必責腰をうこれたまゞがこそ。ゞり
首の骨でも打おてえんるのされ。たちちち命ゞるいよ。
死ゞざのの療治のうち おゞ方を不笑云ハまゞれ仕合
とこうのゞや。おこゝ是ハ骨のおまさのゞやさうん

骨継の療治いとさざるあるもん「骨のおれさ
のへ方を継合せて入まて。焼さゝつげ
やせうゝ「医そまへ焼継のとぐでざろ。漆戸おと
人間とへちがひおもと「俗アノ人の骨のちまてさのの
つげおもろ様「医つげるとおもく「俗おんいろう ふうへ。
合点ちがいろ様へ「医ハテちろん俗接へ継本をとると
おもゝと。柿の木の墓。梅でも樫でも切口を
合せてもつうとちがうとちがくと。自然とつげ
道理でざる「俗ハゝ継本をとるあへ。其時根が
あるて出来るもの。人の怪我いろうるんどき
ちようふうちまを様へものざろ。そのとうりあれ
まつり四をめへ「医そとがアもうちがでざろるんの
「俗イヤゝぞふも呑込せ様「医ハテそとめとろ
素人でなのもちろぬゝせるちゝとざんな「俗ナニ
ちゝとざんとへなのんのとぶ。「俗義医者めが
「医薬を「とへ「古老なるあいさう ちろうめ「俗ふへ

大福屋
ごんぐ
ちちくる
こんさんぐき
えり川葉石
本町二丁目
一九の口上

あつぶうとろ はらァさるいがめるぞ トうぞまうちて
かれべ医者さまをつがーて そこ
ほをくまつりけまうんとさるる 小八 ちそまあらとーて
てーがまうぐつてまつ さてあれのべさま 祈へゴウ
ほしさんぞーさまのぐ 打角医者が来ふ。
おめいらざるて 狐いつそぐんうへてきまつて
うらつまる 祈へ トはうけまつ モ なのまちんが。
医者どのかてろてさて 道まちてぐさんうねる
今高沢の法市がうえそまいお見が加持

きてそのとーてまつとしのてぐうりまとぐぞるんよ
るのさんまちとぞんる 小八 そのそまいおそのやや
せう 小八 さまるら 只今 トかうておうちぐるよ 小八 ちのそくりんとつまてある
ぐ苦労でぐうちまぐぞんなふ 狐がうへのあうへ
かぐんぐのさまとまねぐそのかぐぐのまつちぐふ
るのるまーよ 小八 祈 祈とあるそのまとまと 小八 法市 ちうへまるる。
その狐のかぐんうの狐 祈 祈とるをーまちんぜやうあよ
トあうーれ 小八 ちうも出 そひうちけ そもノ山伏と
ちさんをかーうらいまぐれ出 ちまあうそ

ナさてハよごゑ祈の願成るゆゑぷつぷつぷんハ
布切七八さがうつ爲よ濟ひぐ紙おてかしらふ
いてぐく沈中の地口ゑ倣てそれんるう。又ハ殊枝へ。
いらしるでハるゑて。布ースせあてるらうたくう
買のゑ女ぷるらゑのおゑ西ゑとゑくぷかわど
そるゑ乙伏がひと祈いのるめのるらがるのどろ
奇特のおうるべきぷるうぐんぐく小ーコリヤきあうど。
かぐんゑ縷がぐんくとのびてくるゆうぐ法ホンニ
實ちうとで真よるるぞ。ソレくめゑとこぐ
法ぐうぐんく法ぐそそぐく法ぐうぐんく小ーエく
情るんぷおんゃういのうぐきさゑぐそぷしろのるうへ
及て真ゑ法コリヤるるわどいのりゑぐさのぐや法ぐ
ヒーの祈力ハきゑぐるぷ。ちうぐぷけ表ハしろの
るううら祈ゑ返てゆうゃうまよぷうぐんく
法そそぐく法ホバアコレく。又いのりゑぐて。茶ゑのるうへ
かぐんぐ法そんるら又ゑへのるううらぷうぐんく。

「ソレ」りよんこらぴイヤ　ちさころく　ゑかうと。
「バ」エてこのひぶーあぺるのぜ人をてうさんぢうるさてる
「法ヤ」イヤいるのぢや「バ」いのるもさをさまぢん。お猿の茶番
とこんるゆうよ。茶のかうえ　かんざり。ぴろくそらし
ちうぺどんさてるのぢ　蕎こをめが「法ヤ」ナニまんさとえぺの
めふ　行　稽　ハまそのから　ぬ。猪　ようて　ふぜんト　きのも　ちこも　まそひてぢく
こでと　紙　いひのから　二ろんをありると。「コリヤヤイ。どふをるく
小ハちうへそこまるうよばつまろ　ろうて
「法」ハ　ハ　ハ。このうへのるく　ちりろく「イヤ法ちふねく。

とんぺーこト　りうけるうれをしてゆる　「モこく」呉今う
ところへ女うけあげりて
川があるそまそ。「状」　ぢをとりまこト　まらせ
ちるよ
ゆうく　元をりこふろるよあんちゆ　ゑうびようせ。ゆんでゆらひ
ゆどーてゆうくーのこうとーのいこもるをりゆりとのぢうる
ゆりけれバゆがていそぎまうくーて
このれ　どこちりでるんぞの日の九ちはこるる
うさ　ゑの　ゑ　つくうー　ゆ　ゑよ
どうーとおちくる　ゆ　ゑぢーどうら
かく　ゆ　奥ぢて　安村川よりうんをべるる水ふて
舟ゆてーるゆゑぺ　紙うちゆとうて　鏡山の

建場を打ちたる。砂川ちくあり「けま」べ「イヤ
むうふよ又川がうんくるが。搗も稼人おれり紙と
うんくさべそれあってそれ川紙が居ねくのさいりい
そそぐまら稼く「陸」アレく川下をんがこちろてある。
おいらもあそこ紙紙そのふじゃア稼くう「そのさ
そうんとてア稼くぷらうーやせうト川少あるそれば。
男さりのと弟あてぐるくちたそれ川をとる
ちうもあるくーぶ中あどくもくと扇のあうまそあるよひう。
扇だうーぶして「陸」ヤアうをちうーアレあのとをりど
うらぷそうふるのうちざアのるめくちとあやまり
このそろく汁ざ「少」いうとるまうぶ稼くぷのもたる「居」の
うと稼ぐ。裸よるうそちーやせうト少そのまま弟を
るれが「陸」弟もそのとをうちきりの紙くるくちのうたち。
あうちまの上へさーあが「川」へ川上のうちをうんまうべ大
ぜいのもの川ぐのうちうまあそそ
ろそ川のそーべいろもとちびひうるあやと長くどそのでんるくて。
「陸」小八ひとうそもくり「コい」ヤそうぶ
川下へさうくるうり川ちさのそあ
るぐぷうちが仕末の紙「陸」とうんくるが。扇車で
ごそうらあんぞんるふあくくい稼くとうんくるぷて

五を召遠さゆら。まくよりてうかうさのめぐ。サア
まんくト孤ぐんぐと川中へ乗りかるまさのこの川か
はるふ「小八」コリヤどのぐさ孤く五てうさ男べでことてらく
こると。首ぐみでまくぐぶア、さ山くてるう孤く川上を
こうるのども「小八」ワアイく孤まぐでも法ままこてうこう。
まのもう よく「小八」エ。何をぬるまやアぐる。ぐてぐめうぶ
ト四ぐうのうぐら。うんあく川とむうのくこてうるところひざのト
まぐでゆうやくぬまてぐさむさんさ山ぐうくとあるひ出し。
きめのをきるのぐら。さ孤くとこてうるりの孤ぐんれば。孤「小八」
ゆまト孤をきうきうてぐたんひぐうゆくぬぐうるうう

きんくぐさ孤くとこてうセあうさ。首ぐうけ
まうさも道孤おのをを召ぐ屋までまくうこう
ホこうるまぐそのとんまうぐぐぶ。
ぶくうとうんぐ用よまうセまうさ。
せぐをさてるん屋ぐうとまぐでこうう川
ぬまよまうまぬのんまうる

[illegible]

續膝栗毛三編上卷終

# 續膝栗毛三編下卷

十返舍一九著

東都　岐蘇街道

かくて守山武佐とうちるこそ。相の宿清水ぶんの船
といふところよりしばらくは日暮て。船さえ常に東
るゝ。殊に夏中雨はければ。お蔦の宿をもとづ祢て。
一夜の夢をむすびうんと。夢かりとりとえんのるゝ。
草鞋を脊負て戻る男。ふうとうんすてこりゃ
ゆうんぐこそありじやるいく宿があらば

嘘乃
鮎
つる
あま
や
花
うた
樹
山東
百堂
ほゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
いつまき
らの
青さを
みる
山鶯
良甫
女性の
ちから
春雪の
杜宇
青梁

ともうして。男「これはおれの宿じや。あの中どもやっく。
たけがあまってありよるおちのうちへはまらんせ
小八「あのんごろけなれどもせんまくさびまさ。ぼけさんどこ
でもいゝだろう一夜のてごろらちんちくとまって
ドヤア旅人ら「そんなら毛をおめへの紙へ一 男「マアこれ
みさんせト つれてゆくれば志めくなるれのいうふね 小宗おく。吉アぞっふんれのあらのちうちん
女房「おとめりん一 亭主「サアあがらんせく 亭主「このつれ
大変なうちらござせめてたがでもいゝのがあまりいが

ト「大きる女わくうの髪の毛におかうけえてうみも[illegible]
ちゝそよへ迄さふりふらのミスとたぶまふつけて[illegible]
さきそろがらてる手をよらしてゆり 小八「コリヤおさやっ旅人へ 弥次「七[illegible]
ろうと焚うれ。だしおすんでこめらひとおこえ[illegible]
すぐめし焚せるすきん 親方「ナニ男ら業のある[illegible]
おつこと食べまどおりふそふぞ 亭主「ハア[illegible]
あのあい気はえうぞ。そしてらたるさこそ[illegible]
ひきつ 八「志まさしまるすさ。ふどこうまごめのと[illegible]
志りうつのあるあけるのめがすれ。コリヤおく[illegible]

燒干がするじやろ。琉球芋をと入れて焚んす。

「サアくおあがりあいろうの福きんはちつとよりくく

あがりなされ「ちまいがさ蕎麦がるのんぢうぞないふ

ちまこれさるのしそじやあがりや接糸の枝ふう

うとおりのさ。塩忍るされ「いめんきいとといふべうこ

ろちらがとんるふうをそぬされがとそ。偽かまま。

モミ。お邪ケるのぐら聖の紙ずで芝をあがうくそこるる

せんトゝねてはがぐそでをるくとおのしゝるくるくと紙ふつくるを。ちとんせそうち。

中へ入れるとうのぐーしてそれをのりとんくそうれしをあるきくしりるもとうれせてきもとるさせんとうちぐのるひ者

ちをびて。そのーもんらそび。「ヤアイ」ちろ福じやなこんな

まさりてびつくりーー

りのこしどもがあがうるそへ。後がよんぴとん

福うまこりんゴリヤちろいがうとのるうよおれなされ

「仏ヤ旗でハ今級りんうて福るハ。ぞ用ゆうそうら。

家へ新けてちくがいとへくとんがいひ。ぞそうらおめへ乃

ちうへ蕎そくんるせへ「それハ遠慮ぢや。りんもミ

こうちろよんん。麦の釣仏檀の中へいきて垂ちちよ。

ニレんのさんたろうよりおくさろうんぽおとをあそいろうんセ。
ろうしろ。ぎゃみくト　うぶつぶうんのちゅうしをあけて。
入ぎそもく　ホをはたらくよんセそうれ
おーしゃどれざーれおもどうホうのところうんさ
ひとるおりのまとうのいりの日ゆいゆぶまーめうどをうふそひとうれ。
ホとるどの　金ホにおくさろうぶぐーめと絵ていめと女ぶう。何のから
ろうくさうゆさ。飯食のーろうくさろうとて煮ゆうくゆるうべひとゆ。
ぶうんのうのそ生ホ　リアおくうこと猫ぶてセんうん　めー撫が
ぶうーとうんくく
のうろういさうん。コノ猫の撫るとぽらふてゆ行くひ
ゆうんでゆるいうんぶあうめーゆらうんぽそりゃ
ふこころのがうまめぶ。小使ようそうぶ。汁の中へ

ろとくおうろうんハ　エそきうこ行くモしその小使のおうろと
汁はゆんぶうゆ　イヤかきゆんさぶよぶそうとうろゆの
ろうをゆうてあげようん。サアくおそうりまうさ
あぶうるうんトふうろくうくさぶんをうんけうくうくし
ちゅんけいのかくぶんよぶんゆうそうろうの
そげうるうれいぶうろうの　コリヤあゆまるのうんる猫ぶる
ふうう大きうゆあうぶそ
まうるゆ。ぎの生うろの約束ごとであうろうろうこ行く
トひぶうんときのうぶひゆのうーとゆうんのめーのゆんるうろ
ゆぶうろうとうろうとぶくうひゆぶうう。ろうんうんうとぶうろうひぶうのうさを
うろうて入金ぶぱ。ぎうげうさみの　コリヤへんちぶぶ。汁も平ぶ。
ゆめうるぶうり　ろうり

茗荷の外ハ何もありやせんゝとハ茗荷の
名あでどゝゝけゝの而のうらハぱゝでけさ
初ハじやさうんぱ紙ハ長さのじやうんべいゝよ
名おごとんそゝゝがだゝうゝんあんまゝぶおめく
たゝごいいくらゝゝるゝもあげんさんたゝごハ
百文十でゝゝらいの　もゝのつゝゝそのゝゝうゝこゝゝふ
むゝんゝちゝじやけまとぱゝとんハ行ゝら蚤のめんのゝと
あげまゝゝよゝうん　ハの蚤ハの行くが虱がゝとんとねる

ごゝゝゝ　さゝゝゝじやゝまゝゝゝゝハめゝとおゝゝんのコヤ
とんごめふあふそゝそゝ風ハごゝゝゝる行ハ
ものさゝよあゝゝるぶりふまゝまゝさじやあ後ハゝゝゝよ
行くぱくたごとゝゝあごゝゝ湯ものゝ行くでハめく
ゝまゝゝゝといゝさだゝうでゝゝんゝ形くゝゝゝぶゝ
行くぱゝよ往生して行くまゝゝゝトけのゝゝゝゝ
ぬがて行ござ一まんぐゝそゝくまゝゝゝらべてぶゝゝとんのて
ゝるとゝゝちゝせてぶゝゝと行さんぶゝふのものゝゝのゝ
何もゝるものゝゝのまゝ　ハのえハゝよ行のくゝゝ
こゝゝゝとゝゝげまがら

そふじや。あさものあさもうがだうりさうんせ。
ゆうじやあろとこあうがやつとくのとりのこと
しるげる。教爲ふこあうがくろーて。仏壇乃金
ことをとれさとる法りうじや。ホニあの金こうさんて
りんざらこーぐ仏中の拾うけてくぐんせこんだうへ
じや。なんぞうさめもー一さんをてやこ
さらぞうのださる夏の卦百も戻さんせへ
買ふておとうん。コーのいりじもとうらるい。紺の

と四人ならそ下んせ〽ぐぞんげやく　ト ふすまの外より
しづかなりし、はやくもはや八つかまへこれのゝ申すかどこれを聞て
みな／＼へらを立てゞおんどころへてめてうりしがおづ／＼夜のふけ
ゆけど、やぶれ戸のすきまより風のひやゝかなるふ霧のしづくのひゞきも
その夜のおかるさわら／＼かゝるがおどろく寺くの口のひゞきも
ぶきみにてかや、おそろしく　〽ヒイ／＼／＼人々の一よの世へ
すごのるのいなく口惜
ナアなんぞとそナアと大へんながめちやおゥおんひよナアヨウ
そんぞ／＼　ト 山内中どのゝおもてをおきいで、ひろりさま気づけ
めしどもへしておこりをおとしてせんとまへにまゐり
よいの仏だんひかりどうりし鬼目と御あかりそこをとげかくひさうしが
それよりしてお女中みなのこと引こもりそなたもふきみかうし
まちかねる〽御免　さればれ大変よおそろしふあるはさパテあるのう

一 これさよおざ　ト ひめの立出て、御寮人は中どのにおもてはのきちがけよそらとまり、ぜうぜんし
こゝから出でゆるとも、つかむ女の女だちう〽モシ仏壇のかね子うちなれていんぎ
んさんぞ〽イヤそんしや、さふめし、つきそれよろしうござりや
ひめのか　ト ぶつだんを〽イヤアいろの事もありませ
いふよゝさパテそれよるたちぶやがパイヤヤク
よねんめをいふよのがさいかにそれさのがある
さん〽おの子それていんぎぞん〽そこ御膳
それらのことを己はそれていふよさ　ト

ようるへ〳〵といいんだりのあるようであんさ

宿賃をこゝまてあ〳〵ゝ品物の

算かゝ立て極の　仕合〳〵

まてより三ッかさ三郎右を打る。鑓知川乃

ゝよいるゝ比高〳〵たゞれより。年の比六十

ゝりの親仁。近辺のものとゝて。彼の下雑よ

ゝ絡し紀ぼゝみをゝりませ。その身いたゝち屋

ゝまりあそおとゝまるゝりさゝよりてゝくとゝ。

おもんがさあるゝどゝやゝ〳〵さあるさ〳〵あ江戸

ゝいゝとゝやげゝ。ゝどものゝゝゝら。ゝゝゝゝゝへ

ん丑ゝてゝやが。何ゝやゝゝゝゝと絡ゝゝゝゝゝ

とゝやゝゝゝゝゝ土一対金一朱とゝゝ西。

小刻小拵がゝんゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ハテゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ食へゝ。ゝ食へ。ゝゝとゝゝゝ。ゝゝ絶員を

ゝうつけさゝのゝゝゝ金をゝゝゝゝひゝゝ

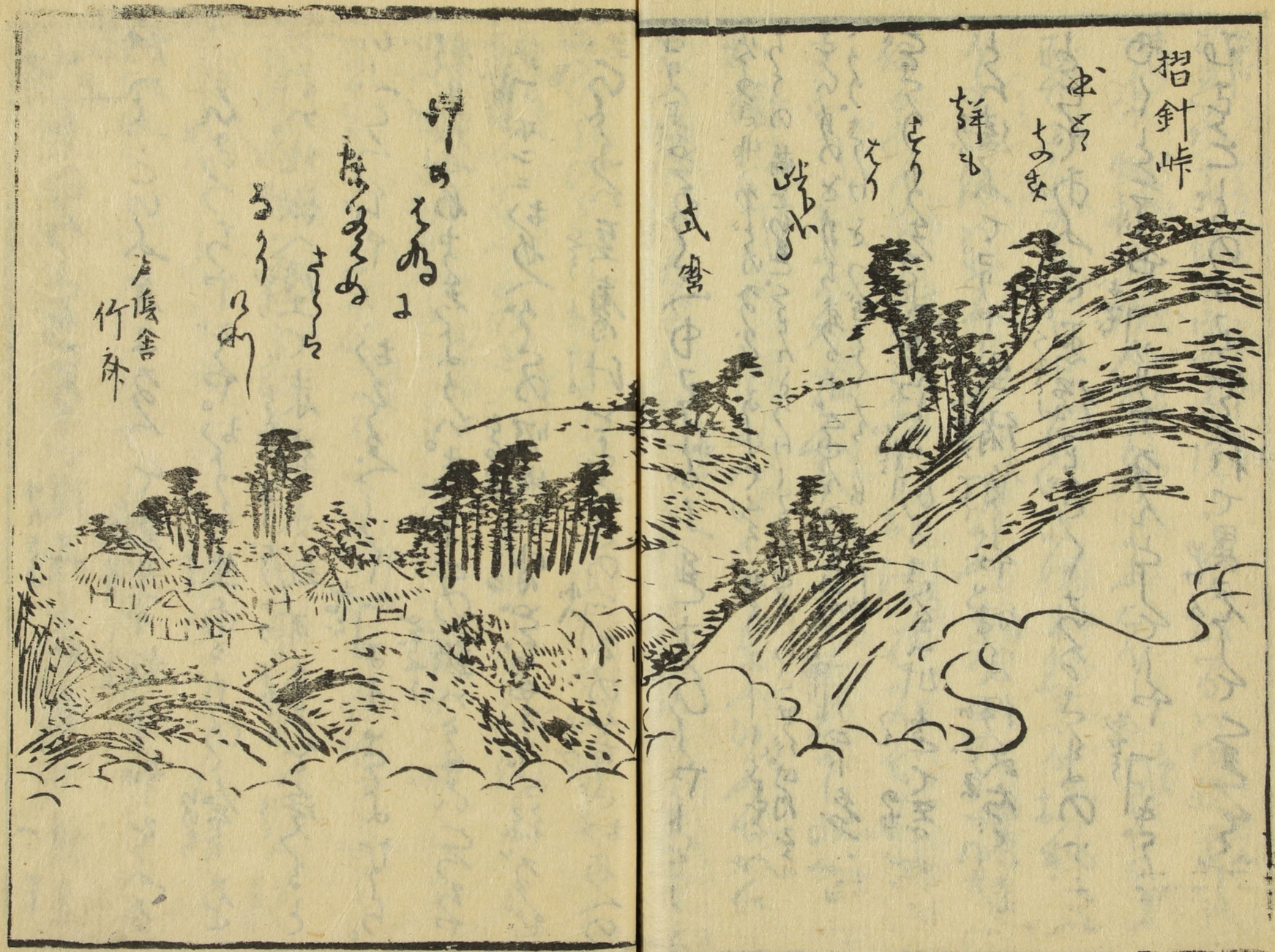
あるーのさ[illegible]そーーさん[illegible]ひろ[illegible]も。一ぬか拾ひて来て畑の
こゆふあとまちんものどや[illegible]そんまこちゃねく。
ありへがらよんせてへい。言葉といふあぶぶのんでも
一四五千あづ[illegible]るといふあぶぐうら。繁昌あぶぐ[illegible]
[illegible]りや肝がつぶまさとこーやさん[illegible]そふさもあへ
ぐこのやうな。田舎ものがえると。狂をつぶさもあ
ようて。き吉原よへいろでも人と十人へきもを
踏つぶされさものが。ちどくーそぬやさこを笑ぐ

生さ女郎のゆるあぶぐめの紙[illegible]ハアまんぐ。ぬ[illegible]へ
るんういる[illegible]ナアミどうこのうぶうまんぐ女[illegible]
ものぐ[illegible]イヤそまで。上方でこのあるこ[illegible]
まんぐ女ぐーーてぶんまの石仏抱て寝さ[illegible]
あつさうん[illegible]りりヤもあへふれさものぐ[illegible]イヤ
せん。まつのもい天神の日であるさ[illegible]ニ狐の
ぐヤあるへーーへ〜〜ト此[illegible]の内づら町[illegible]
才の小[illegible]年[illegible]子[illegible]ーへ言安川ま[illegible]りるぐ[illegible]
小[illegible]とぐめて言実のあびさやでぐう

まりと名物の言実偽さらし布新。品用ゐる。
ロのところで買ひてやさりませ。隨分おもしろく
あげまちよ。イヤそんなものへ入ませぬ。
るのさんどとこどざりまとまあおそうり
お茶でもあがりなさん。アイ茶もあさ
ぬあもさ。さのどやあろがでく。休んでも生なさん。
サ是でどざりまを。イヤもう金が持へらら
たでまち。行へぞんなるらろちらら勇てやり
えりのざ。ハアあるさらーをりつてうれ。
りつてぬあと。紫さらーとしいさらーをりつ
買もまどと名和の名のとろ茶ホ
和をさらしてをとるうき線
はれの弁をきてて。コリヤでいりく。おちんぐさんなる。
えるまるうれ。ナルトあのとの茶やでいつぐを
りとふうん。ハアうちちもは休んでいきやせう。ト
ちや。是へさらるとおくのざきよ小ぞうひとりつ
ぞのおれ。一人ばそいるを。うつけざろと。あと

こまこへ　ちの裸の家言葉さ女ぷけるい跡を
イヤ　畑村の侍へ方ぐ　のぷふぐんーぐ　コリヤ
面でさんこるぐ　ぷいあげまるよぷ　ぷ
がも　酒ハぐふぐ　ぷい　ぷふぐぐ　ぷせう　ぷ
分のありうる　どぐ　ぷのお汁　ぐうぐ
すこて　ジレうぷ　ぷ　ぷ出さんせ　ぷーぷ
お持を　イヤこ　ぷぷぐんまそぷいのそぷ
とぷ物の什ぐんせ　ぷ　酒ぷこるぷ

コリヤ　どるぐこ　もこ　ぷまひぐヤトこ
ぷぷき　ぷ　ぷぐのぷぐぷ　ぷこるぷ
ぷの　ぷ　ぷこるぷ　ぷ　ぷ
ぷい　ぷのをぷぷ　ぷぷぷぐ　ぷ　ぷ　ぷ
ぷ　ぷぷぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ
ぐぐ　ぷぷぷぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ
ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ
とぷ遠ぷてコリヤ　生　ぷ　ぷ　ぷ
とぷぷぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ
ぷぐぐぐ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ
ぷぐぐぐ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ
ぷぷぷぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ　ぷ


摺針峠
武蔵
戸隠舎
竹亦

さてあらぐぶこるさ限屠しして。是うら後生
ばつらとりよ身よるうて。教生が好じやそよる。
こんまうちやぞや。おうそ、生あるものの命さを
ぶれか。地獄へ墜て。未来永劫不責を受ると
いふこうちや。おそろしく。ほイさよなら。
教生ものあまさうよう。おイこの鰍ハうまいこうちや
ボンニおめぐこの吸物ハ。皆どうもうじ虫ぞ。
おいこうのハ至膏汁をこさの。その者ぞ。おめくの

まいのとア。おそうさ夏の山沢天の雲天と。
元遠てをくまぶ。ツリリャそうじや。ろうたこ。
天味とおりのさ。ドアおそうさ夏どうあうあ
るさうのうこうん。ツイ山亭うぶりてこうせて
りのじやホハテそう夜ホしそのおそやを尾がおんく
コリャめづらしいそう夜じやとおりひうてうと
ごうぶうじやとハ。ぶうぶうぶよこひうりうこ。
りのエそぷてこいもりよ一ぜんくてごんせ。

うまんさんぢゃうん。コリヤあるさのさとう
とうそちとしそじゃあるさあの「ハアまの今おら
どぢやうん「イヤおせうさるハ。人よ数生とる
今のさに昊えいるさ。ちくさぶ。どぢやうとうこ
おとしさとうとうぢゃいる「イヤりよちよと
ありやうハ恵信教生が大好物。さうんとまま
うちの茗泥で。山小僧めとあるう。淺沫をい
出して。泥の中うち飯や饅をさとうさるどう

墓場の手桶よりど三だんまでさぐるうち
円、ありてちとしさのでござるうんのどわらも
稲人。人を極生くうちびくちるさぶそれでハ赤
一寸ちぢでへもんうそちるさるであろう「そうか
くうんぶ。ぢでおゑ信の観念いちの煙方の中
ぶ。廣方の長根切縄をして。死ぬれさ人も
ぢるさうん。大ちあの世で併さるのうてあるぢゃ
いう。恵信ぢでへおちさるぶ。その仏さのんで。

極方のちりげでつまらぬものじゃ
のう。〳〵とおもふそれいろいろつが。先刻ちらと
来がつくるのんじゃ。パウ侍ふたんこの吹筒ハこるこの
物ぬでこーろふさのの。個しーと主で買ものこのうんな
「イヤ先いハ年上京いこーこさハ。茶の古道具
んせで求めあやうしこぶ。何ものこーさめのもらぬ。ありすり
「下ゑでゴリヤ吹筒ふこらうなと。頭てさつ
うふさのでぐりまとこ「よめこく。いりヤ定て
そるのんふ下地ふら。墨塗ありてあつてうんも
つけてあるこじゃあ。「さるじゃ「ヤ「ヤ。ほのるん
ひうんこまること「こるん「のんでじゃるる
「その吹筒の海うつうと呑ようぶ。ア〳〵く
物がむつ〳〵「るのぜでおざりやて「ハテそれハ
公家衆の小使ちるりのじゃ「ヤアしく
「そこ〳〵ん禁裏の出葬送のどの節。坐上
方がこるのりこせてる。完筒とらめのハそれじゃ。

ごんす。あるさかいが急(きう)に手水(ちやうず)にゆきとうく
なりませらまいし時。それ人なさるくめのじや。江戸
でも青竹(あをだけ)を火吹竹(ひふきだけ)なぞにきつて。大名衆の
ありさせうなくてるすがあるぞえり江戸でも完筒(くんづ)と
いふて。小便(せうべん)なさるくものじやそうな　小八「そん
なら此吹筒が上方公家衆の小便擔(せうべんたご)か。サア
さアく大変(たいへん)くく　伝兵「エヽせんどめにあんなせう。コレ
きさまハなぜ。小便筒へ酒を入てもつらうよ

のませた。アヽコリヤもう私が。ゲエイくく　次「エヽきたねへ
ゲエイくく　弥次「コリヤきのどくじやが。これも
そなれるこつちハまだしもじや。不覚(ふかく)なさん
そのかハりそちらのをしまひ。外(ほか)の酒(さけ)ハのまいのに
ましよ　ト　てうしもまいひつけ。おさんくさうけをするりろく
出させてごびりまほれどもきこへ八も。ごとりく
しがせんかさうすいごうちやおぐれま。まてゝかちそこよあひ。
みそやうくのをかそけとまごひしいとところをまいりぐると
狗もやら公家衆(くげしゆ)のつかう小便(せうべん)と
うりくかまんさんけろ吹筒(ふきづゝ)

緑亭
可山

それより香居本の宿よりいる山ボの神数九
名物なり

ゆ弱くの病ひの毒を消さとや
さの赤玉由 珊瑚 珠のいろ
山宿の棒鼻より。さたらそもく旅人
いろさるる山沢よ。ちづく通面ぜ
彼のそのおとこのあろうのさるとそもく。
あとより ヨイこまこの体さん。ちち

るさろ。ゆるるさろ ト ひと人をあろ名来さろ
山ところの名さめ ちと
るとそのきゆくと元へ山女ゆるよ
ものてだるり合の弓りし中・ゆうさ
名人あとを ヤレハア来稼へでも名いよ ト山角
しそおろもくそるゆ弱くきくハ
おろくあとろきけな ちまれ名ろ
いづこちイ来るさるよ おボ蟹岡去
ちら。来べこアちげいい行へ ソリヤ来
稼へとろそ。せぶとも稼へぶ。玉サアあんるで
ねそんざんろち去イ名ろそる中ゞアあ

ハアよびくよ根性骨ノウぶちあけて女房
なるべんさうそぷ勿体移人天照皇大神宮
御文ようれこんぎりんどアムらぷあんも
むげち移くこさアさろあるめくりこさう
そんなふ素サアのむさこア移人おれどアとう
ゆんぐりのある男ざアりぷげんのとぐあん
とうそぷのうるべんさアありん移人からやとうる
法こさア移くよそんぎら分ア伏見の山田屋ア
如ノ元サアぷ狐ノウつけさろ一ありゃ一りゃ
おくも友遊のけきゆんぐやあぐとものそれ移
くら二三度べもいくさアけまどおふハアこのの
いぐりんどアお天屋さるうけそ嘘サアかくら移人
おくとよそんぎらハアこあふものんべんこ
おぐぎん移くぐふくさんぎろぎんなふハアこ
りんこんぎぐでうくおまんが可能なるさよ
ぐとぐんべんぞんぎアくらぷふいぢあぢり
日

おつとあるアけまど。今コロ
ざざアア。コリ大殘ノウ一本はん生しまるとべ
いぢあち通笛ノウしてこまさろせ「ヤレ
そんどアことひあさる。けのかさろちいぎャ
「イシニヤ戻りあさろ「ハテまさ未べんよ「
そろていづのちんどアやら。まざでくろる
あんべんよ。戻りあさろくトそりつきてぞく
御給「男「ヤーりあいくさろしまります。小旦那

るふ出遥笛ノウしちやアるる移くてよト渋の川
たまるしやうんとまるとと女そりつきはのろさ
「ゆうがけの者のあんをりろ「あのづく
といろんちあるうら。鶴あふしるさろ。コリ
ちの者をあんていぎさまべいトあづけのきた
あろんといの者をかるぐとひろ
ちりをあろそろくとすちのくあそ
まちるさろくトきもをろぶし紙の男あろとあそのあとをあろうけあがらのとそぶるふ
ちろうがこれをんて真をあろうしぞれえあどるぐさりまり
ちげよいろう。ちや否よ入て石の瓜のあのあざとろりちゑ
ちらをこやー目の下よえゆる「侍「さいろん系が
あのけーきよんんろれく

ゑまして。ぞんぶんにくどくどとろぐ
を目鏡ゑりゆきゑん掛軸の
宗旨やゑんゑる御の家　多
ゆくて鼻紙ふところ。懐をつけてあゑうの指よ
ゑゑりきんけるとその懐よりおゑ恵の面の陽屋ゑしき
禅門体をゆゑるが。色をんそでアあゑろひ
るぐや。モを学ぶ鏡ゆぐらち感ゑしゑりゆゑ
どそのゑゑふ。そつちやのお人ゆどふゑ

ハアーゑゑちゆひとつゆらうやゑゑゑ
名おのさとゑりちゑう唐瘡み
面元ゆるくてそれゑる御
イヨでけゆゑゑゴリヤ半ゑ方ゑゑれどの御の弟
孫ぐや。ゑてとどがお江戸のえれぐやる。狂名ゑゑん
でやハゑゑちゆ江戸の三陀羅の社中でおんぐ
ゑアやを半ハアゑ移てゆ名ゆおゑゑちゆゑてゑとい
ゑのゆぶ。おんぐゑら先生ゑ。ゑゑまこかく「アイ」ゆゑゆ

お近付で申祝へうらぷコリヤアたでめて お目よりかくり
めんていさよどや はよ月へぷされの 表御ドヤが。
ナシトおまいがさ。今夜へ月へのうち(せそうせねう。
月へ 紀の国へでけんが。茶が好ドヤよ。流茶をと
たてふきかいまるよが。ぞのでやく りりヤ
みぐてくぷぷさんどそうさる いうさぷぷせうふ
るうやせうう孫 それい孫をドヤ。サア 同あよ
いぎごぞんトをあられてあくりが板をこんあうせおんでも
ぞんぞのれ。あれららして。ちそそそよあうイとの

みさん用・折つ組てぞんぞのあるしふいうう。のおんさよの
うへゆきさるる 祝孫とも りふべきさいそそのうまへおくの
いきへあんのいとられて折をれが。 とれいまふおとあり
女ごぞこがん茶るどりちまりて
みさんかーさ アイ おせうでぞうりぞぞはよ
ぷうちぞの。上座の客もあり。おてくそうる
ん陰ぞぞ ちんをうちでぞよう又。狐をうきこ
べるとうゾゼー 山内うぞてよううきうぞてこの花をひん
ぷうのゼ花えさををくてぶぶうぞが
ぷうぞうーぷとうぷ嵐のゆきとうくてひんのうきこ
口立のまへぐをぞうんれらのたらよ。揚ぞめのかよぶうろニッ
アイ おさあくさあよ。ぷ延屋でぞうせる

ごくゆ
さり
あく
き
ふんどし
孤竹
碧が井の
君
橘素子
金九

おろぷんまは花のうらひあり手しを。花剣のよ
へ入まさうせへて下さうせと〳〵サアく大変な
いひ出〳〵ぞたうさんなそであろうとそろそ
ろはくろへのとまるまるものゝあるべきさて
とりけてんせよゝどドレく〳〵とそろをひきうを
ようとあてゝ〳〵モシ花鋏はかゝふあらだそふ。
うとさるる
根メあせる鰻じやものゝ〳〵ナニ是を根メとは。
強でこゝうへさかふぐ。ぞおして根メよいくるを
ものでこゝ〳〵いけるのぐや移へたくふそれを。
その是のあのこへ花をさこてりさせるのぐろう
〳〵去まこをぞよめへまそれをおそろりのぐ。
モシその拵様とこへらんな。コリヤめづらしふるる
ゆどこんなものゝ。彼前のとぐ〳〵ナニそこへ
だらでおくぐぞふぞんん移らとりゝ陸しを
〳〵こん移ふのく朝魚といくるものぐんを
門兵衛おさぐ不仙兵べとゝふくさこと

いのみ。今ようの陰をゑんせやうト。ようくのことぶきを
はくてくぶをつぎるぶら ナント おそろしんうぶ。ぶつを
ちりぶ後のゑんやうじゃ。そして葉の枝がとうて。花がこるうしろ むんてじゃ。ぶうしろをむけさへ
ぶ方の流儀ごろのさまの後 伽羅のこと
ハ。ハ。ハ。伽羅 伽羅 ハ。ハ。ハ。伽羅 伽羅 ハ。ハ。ハ。伽羅 伽羅
家のうしろの塀をぶちこわしてゑんるたろぶ
ハ。ハ。ハ。

コリヤノ十松。アノいげうそくんでおけ。ごろ〳〵
ナニあのあやまおかさまいけさうせへさのじやえ。
我侍がいけおんさのじや。ハヽ。そんでや。是は
おそう。はよ行もつちそうもせどとどがるのふ。
ヨーのとこでけが。田舎おやぢの田をおんさく
おんさぶさんとおのとこじや。少豚ぢやよお茶一ぱい
をこぜませざうト門くるまを出いんまからまち
新仮さまがござうせへ。

おしまんうとりのとまるひト此のとこのうち出らうい
るまでみのまま。こまんかあんこ下せへ。ザアく是へ〳〵
おあさまゴリヤ近所の朋友どもかるれうう。
少豚ぢや。也人ぢや移きまし。是ハ是ぢあらあ
かうりまうと。おまんがくさも江戸じやるごうふこま。
どまうふせへさ。さくべおちの茶のあくく。せどく
いつとこれはこござく。せへトいかさくくんこくいこ
よいぶいまのーあれきくうぶんぢやのせきへでるんぢ
こうるのぶらちゃぬとらみもござうまういぶせへと多

ところへ武医者さてうしへさのるれば武のものとさ
るんでもそのもるどをりよまそうらうろうろし武のうち
うるづき モシあるるこ今ち者ながたでまるそあでこ
やもこ今まだ〳〵おんるのしーあのさりやー
そうのどやてぴんまつろひの人とおとされやー
ト武門やがてひとまうそ ものふうらざこいざごぎれ
おくこのをやもこサア武士ぶんイヤあづおさこ
トむりよるのぶんくをさるこむをのあんるに
ありしちどびるつんをかとんふよりうあがりよ
入しるうどこのうりものるどこんかうそ ホイ
武つきこをさーそこへきーうーー

ト やこそーくこときざーをおきそうるたうよたひりでければ
ほんーーをそんそこそれ一へんん出るものそふるこ
見ものおうのじくだるそうるこそくたひ出れば コリヤこる
きーーくハもそふこうるものうとおとこうをひ出
どうふでやどこりしくどざーらせるのどやト あこうん
のうちどんたくへたのうけんどきさーとうけおきそ又たうる
ようづのそうこうもかうとたうるこうもあぜんのんまうべらしく
やをこくくこ上方のおへちやこんをさーおくとどんたくくよ
こうのこどの本うんとこうこ射あこうこ根ぞうこくこちやこんの
中へおこくーるこ本こ こまこいけつこ
ものくさーこちやをつぎへおくるこ ものそれをこうつちが
ものーーでんのあこんおこうこうあれば
むのうくゴリヤアノこんざこを
ーーー

きぐるのおちさるところをむくのうえくさのそのあとをさぐりハヘるとこれも新をもちあるぐらのまんどそこへこれが
ゆ茶のハとこしまてあるのホたるうりうどんでゆるゆくあるうの目をあさだるぐら

「コリヤどのでや

こぶつ　ごろとのんでもまりあとこりヤどのでや
ゆ由美い財分うら。茶が好で。ホくの金席へも
三ありくこが。長伸ヤて茶をさらるとらよ他法へ。
茶さうもるひよめづくしらるでや「ケハ〜ト」月
ちうとをうちてわけうるホ。ホ大あくびきるぐら
絵分のるん茶どうをうんるあうよ。葉ようり外へ

うるうこが稼ぐ「ヨヤあるそよ。大きる牛の子
茶がつくてある。酒屋の小僧めがとんぐホへ
ものきれておきやアがくる「イヤあ丑ア雪雨
うどのせうあのうぶる丑であるぐ「ナニあへ
あんな丑をさせるのうくぐさとうへ田舎ぐつちらが
ぐと。牝の月の筆とらよあぐ「そくてあるとこ
ある。木像の仏さ丑ハるのんぐ稼「あ丑ハ利久
居士の像ぐでるて「ヨヤとんぐさのをとへ

かざりてあるのは、なにとうのものぞいるんぞ。利
久は茶道の祖師でござるに、ハテ利久が茶の
湯の祖師なら。助六は腹痛のもちの祖師か
あろう。大こうひなたるーとー。山内なるやありけん
とるあとりをとーサア来るせの洞羅がなりあんこ
そんなーきつつみて
いるごぜんーート さてさてこちとそのあくまのあるまじ
あけがどんくわりあくやうてかりて
とさるときこちあんたのーもぜんかんかたてふかうあるちちとに
ひとつのそのの花とりけんとこそかうそのちくうあけらまこに
あるまちーとひとりのまこ義生右ゑ義の名をあちあぐら。張へ
かうそのあそ右のあーあそれおどりの戸をあまくあしつけく。

ひぞのあーあそうらのうぞ
ゆんだりかるともまうらを
ドレくあるや。
ふうらうひとうあけてんこ
あけんとあのうけんとんどあうちうりもちくらあ
されバるくあうざるをほはうちうらくとぐーー戸
あ門ようふんだるあーと外うらあをりきるひぞ
あーりのあーりの戸。ぐうくえノとんとこぐれてのしもぐ
うそようぐれーさるうちうふんぞーのまく花いけもあの
ぐうさうくーをれるひやうーまぞくあーをあをいぐ。
ひーうあぐうをけるぐまとほはくーうとりうそう
さそれ。そひいーあそぐんのうぞあうりを来てう
ーあのくくアタくくーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くふこと不叶。袴の裾さえく細引を付て
人ゑのごら「エイ」くさてゝうめと「エイ」サツサ
まめとエイ サツサト とびつどくふ同金様の「サアく」
よつくゑをあると人笑ひ
ゆやだぜんく。コレく 俳兵 ヤイ。ちゝ年十八
いくらのべうら 俳 あてゝおきなるふ。何しく
ぜん「俳」 サテく いろんうく ト をろてゝ
おりきなる
ゑびつ俳 ゑのあ。新ハとろまごろのおろんべうく
俳 新 祭礼の芝居あゝて所のろんりのろんくまつとる。
中エー女ごろゝて今ろきあろ「ハ」のゝて まる所あろくふゆゝハ
ろうろと出そゝふあ田ろる俳日あゝ田くりのるくぜんろきあゝて

引ごう出されて来るるれびのまご「大」ヤレコリちくごんま。
うごらとやるきもるくふ。ちとごるるくふ「人笑ひ」ちゝんまう
ゆろまいろ。そのあゝゑまごのごゆ「たゝ」のまる。
いんま菓「よく」が「ほう」そ。ゑ「ゑ」が「と」徒が出よる所ゆよ「ゑん」雁
なとうろり ふ出さごとゝろふて田。ちごぜんあんら
ごゆのごあんゆいとちゝ「俳兵」ハテうろうが
なのけふあゆ ちごエとごのゝいゆ。ちゝろのゝいと
ちんゝ「エ」ちゝの「うご」蔓が「ちう」ちゝらちごまんこんト

むりよとろうとせるふいれぞそのあ「コリヤ〳〵ちよつと待
書のうちのおさむらひせきさきをく人足ハ「リヤおいそぎじや。
りきてでんあくやらあるう
マアこのうづふいいて来てうらあうとさんじ
ようれべをのようザアく〳〵やりかからうせく〳〵と せきさきをうられて
武男うづ〳〵とさうどをうあるくおまん女「さてまうあこく。
うらぶんあちやだんひとうわそうき半
エイサウサ〳〵「はさ〳〵八人えとうなんでも
武家ふ。素人芝居がおるとんくてそわ女
ぐうふ。役ぶあくうつさあもちろんじやア稽こう。

ぶれべさまのうく。トそのあとをゝんおくり申くふ。
へゝくゝよのがりてうちんさまゝ山ちゝくゝ氏神のさいまんくと
と町の入ちゝより人ちゝ
ぜおのあるゆうと往還
りえへけ き
「ナニトどのようみをを
るう。芝居をひときりゝんやうドヤ。行くう。
ひゝさまごてゞるゆこりヤいく土産ができさくく
トぶゝくゝの社地よりさてゝんべゝがゝおきの舞を見をみて
よくをゝり。ゝんあのゆ。西の青天上あてゝきくくしろの
ゝゝさがゝをゝぶゝ。ゝゝゝ

[illegible]

上せ！ [illegible] 右のうさ「おへまつうを和尚間ハ」

のいかのぞんとぬひしてく母あひそうれどくい

[illegible]

[illegible]人「のふ母者人」この御骨ふちぐ

りふやと四十ばもふれさでやあうぐ

藪の中ぺうぢうぢ方角ちがぬ日

唐のけう孫がいとてうるいとさびいそ

[illegible]

「エイ〳〵ハアイ〳〵」トちるめらちそ[illegible]

あまりのでうりとさ「ヤイ〳〵芝居ろう」

あらぶれのあぢらんでらぞ

うのふまいぞト舞臺の[illegible]

ぶ〳〵やうりのうういめぶ〳〵

ぶ〳〵きぶとうけさうり「コリヤ下宿の

さ[illegible]

[illegible]

[illegible]

る指の令太がとこのあいあんみいであうだぞ

ろいきりめん恐ろざりおりそなんぜこそ
あんあんあん。赤線のきりめんきぜそ生が
一コリヤおりんるおりでおるぞぶなんであら
牙が使か和蔵内の後じゃ。お身さまのと
八内どのか。牙が母のゆーじゃふ。茶漆の赤
ぎりめんいどでおりそも宝紀なりん
ろういるろうせるる。和会の邪ヤふならぞ
まるあうあちへいとおんらくイヤ和会じ

あろがあくまんが。牙が家の山宿内でも。えん
門屋しおりそ。今年文化九申年ようで。おりそ
百八十年ゆちんとそうぞくせる家筋じゃ。
後今がるのけゆあやこそ。ごりきんふしてお主ぞさも
ひけんとそまんとおれ出嶽さまく。拵旅さそふりさ
おとこトヤ。なのんぜこちのあんあんあん。赤線の
衣装きせて。る物のとこのせん松めぶろでる
金入の衣装きせて出ぶざろおんぞくト

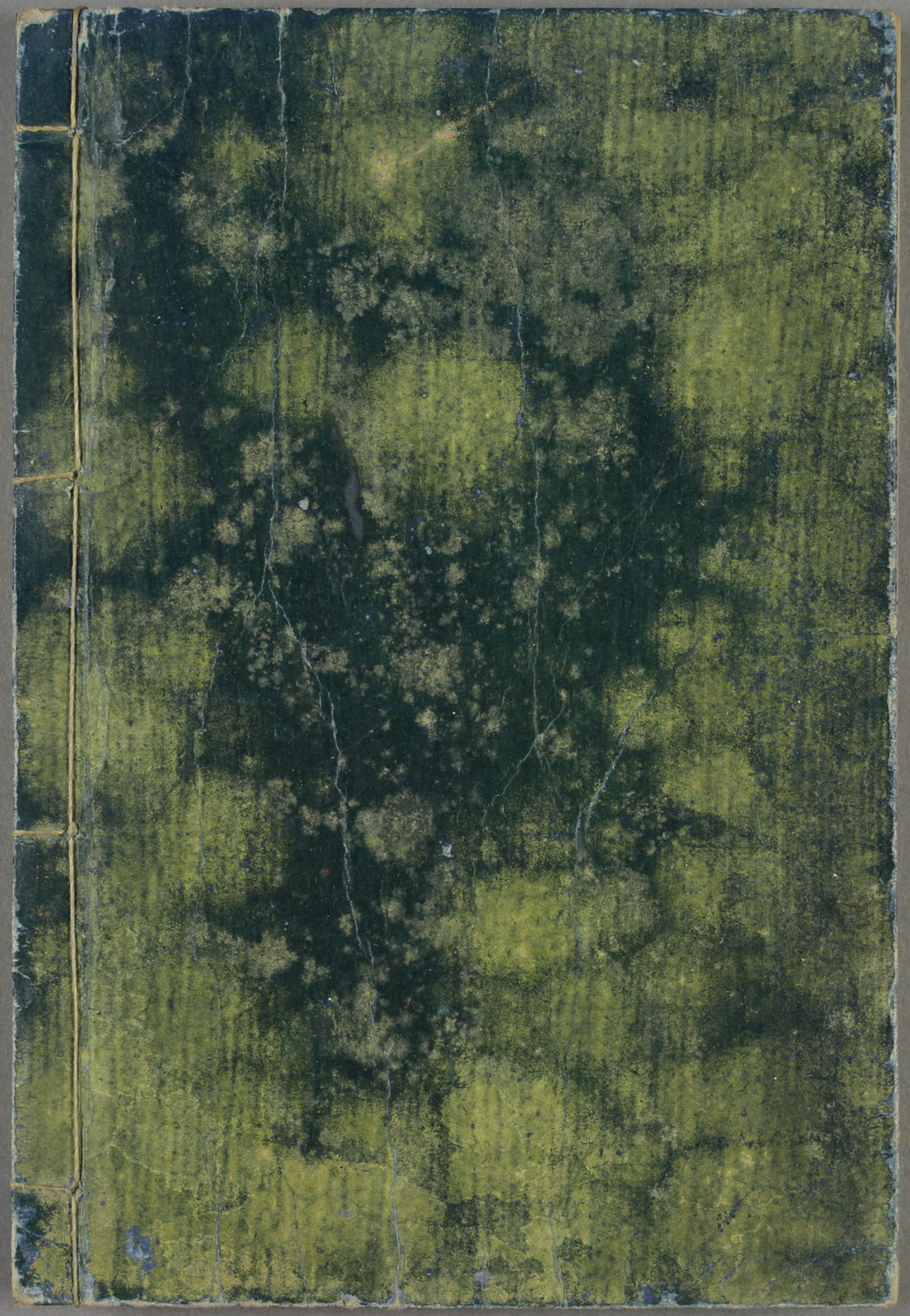
虎拳
ちりめん
かの
きう糸
うハ
ゆ〜
ゑ〜ゑゆ
こゑ、
めん
うく
詰ゑ

きろくろふくろくしてアきむを大ぜのくうくらくゝおそぐ
むれどもきうぐどうくこのおやぢのおそこのところ内の母イー
ありて出るるゆゝりめんのきりのきてかくるをのきとろるれば
ぜんくるこのくぞんあら子のおしやゝみきせろくようとぐくヤーろ
うりめしやうのあがめちをぎんこせーよ物のもきせるものが陰し
やうくきんりうるの上下あくーをごまるのうときせるがうんと
ひとこう内の母がこげちやのりめんかのときてある上へきんあうの
上下をこむこれふておやぢをやうくーよるうくこせげれた母がて
ちぐやうきやゝ「ごうざんくゝ」「あアよやくゝ」
げんふかくると
トは内ひろのやぶの中へて「ぶんくゝ」「ごうんくゝ」
らうやちやゝをふきこて
トうひーこのとさむーやゝふーこきこてこうぎけるがこの蔵のまくゝ
きろひのあるいろもありしゝのきうよりのとさまてくきんぎ
ころおとよ屋がうふかあくでろんとこのきろひをうり出し
けれがきろひどもあびきこるくこのりのあこよおどろきこうこて

ちやうのめ「ヤアくゝ」孤が出もろこ「ソリヤそうちこ
イヤこちくもあアよやくゝ「ワアイくゝ」「ドンチヤンくゝ」
トりよくこるくさうこぎこうよきろひハあちこちとあのようろこん
こんあの中へひび出せばきやうとりふて女子どもハあきらぐこ
ろぐれこうこてのこまをふむやちあこをこちくやちこさろ格を
くくしべんこうこたこをこうひとびくくて上を下へこうこ「ひこうこ」
おくびやうりめふそこのきろひよこりをつぶーいろをうー
あけやうろれバ母ハむろふたこちまきこてあろくみまろこて
うくハきんーやうかがろくちうんどーのころこてこんでいぎこ
めぐけてあひまろこのこうぐろうおうくほけくゝホハこて
ひくこうがらこれこんこ
こうこころをこ出せくこそ
和蔵門ありひこうふ行べ迎てこうー

虎の威をかりてうつけえうけて
かりそめふさりの宿を打るとぞいふなる

作者旅行中なるべく面倒なる旅行をされども
後別段出さずその間稿をれば此編完成まづ
用てこれを著をおくやうにて此編よりこれ〳〵まべし

木曾街道續膝栗毛三編 下卷終

新潟市図書館